

正朝吟

大出氏



大出氏
鷗洲



寛政六甲寅

歳旦 菴の傍に時をうす
撞様あり

門をぬりぬかひ唯尾上

駝岳

をくつてなげらるゝ位の内

金芽

猿まはし猿よひめを守るゝ

東門

其二

名日下よき路の劇場の北

東門

き湯し釣籠湯まきつ 駝岳

百ふるが前より思て子外て 金芽

其三

多水しおれハ初花去年の三 金芽

あゝ玉みよ丸一はき 東門

岸邊のなむむの針さうの ての 駝岳

春日吟

一時のうらとまぬはき 金芽

雪

美子たふのじふとついのい 駝岳

休と

中しに比秘のたふとら 東門

事

膝掃こいつはけりいふは計
金芽

調年

いふはけりいふは計
金芽

嵩晚

いふはけりいふは計
金芽

歌仙

事

いふはけりいふは計
金芽

いふはけりいふは計
金芽

いふはけりいふは計
金芽

いふはけりいふは計
金芽

いふはけりいふは計
金芽

いふはけりいふは計
金芽

いふはけりいふは計
金芽

いふはけりいふは計
金芽

くちまのこしむらぎのうらみ

牡丹のうらみ

菊のうらみ

胸のうらみ

馬のうらみ

相のうらみ

舟のうらみ

笠のうらみ

枝のうらみ

東のうらみ

船のうらみ

白のうらみ

うらみのうらみ

うらみのうらみ

うらみのうらみ

うらみのうらみ

うらみのうらみ

うらみのうらみ

うらみのうらみ

うらみのうらみ

諸國徐元之哈到來任遲速



海防の要は其の要なり

我々の守るべきは

舟楫の速くしては

官軍の力なり

但馬の舟楫の速くしては

舟楫の速くしては

舟楫の速くしては

舟楫の速くしては

舟楫

舟楫の速くしては

舟楫

舟楫

上元の籠
あま程

御
あまのさか

友成ゆき 硯墨筆 院岳

法華のついでに
あまのさか
あまのさか
あまのさか

正朔

あまのさか
あまのさか

初春

あまのさか
あまのさか

せいふ

あまのさか
あまのさか

寅の年

六十二
あまのさか

あまのさか

歳首

あまのさか

あまのさか
あまのさか
あまのさか

あまのさか

あまのさか
あまのさか

あまのさか

あまのさか
あまのさか
あまのさか

あまのさか

あまのさか
あまのさか
あまのさか

あまのさか

あまのさか
あまのさか
あまのさか

あまのさか
あまのさか
あまのさか

あまのさか
あまのさか
あまのさか

浦まのりや揚安れものま 酒造

ふ所のけりまのりや 魚牛

水やわ清まのりや 化笛

まのりや 其帆

水油

入るまのりや 夏菰

物まのりや 物

控紙

まのりや 十二

まのりや 二半

群まのりや 公市

まのりや 酒造

津まのりや 主所

まのりや 酒造

まのりや

まのりや 酒造

まのりや

まのりや

まのりや 八分

まのりや 一校

雲

羽

松

江

社
中



歳始

三つ代や門の松女ま松 全枝

大ぬくは一妻と玉乃松 青風

高よりあり何とぞぬれ 雲の 雀僕

深きまき〜松のしやるる 如 似教

門松や神代の徳乃二何松 賜錦

重浪とて能く〜松のたをの 表 雨勇

年行と銘の古何
の宣のまをさる

光お ちか〜子屋同門の春 清仙

松とて昔のよま〜松の
新鳥の〜松の改めん

得るもの光

用柳段

御心のあり玉乃光

文龍

守来

とらふかき梓きほし道無 連枝

さほちか乃 傍も せよ 昔屋 芽凡

しほちか じゆん ちか 城の 辰 巻 僕

あて せ せ せ せ せ せ せ

結りた

乃光

しほちか せ せ せ せ せ せ せ

あて せ せ せ せ せ せ せ

しほちか せ せ せ せ せ せ せ

結りた

乃光

那くや 師を 此中の

茶後坊

又竜

不無

臨海 臨海 なる なる なる なる なる

しほちか せ せ せ せ せ せ せ

せ せ せ せ せ せ せ

せ せ せ せ せ せ せ

せ せ せ せ せ せ せ

せ せ せ せ せ せ せ

母の白

可勇

横の如き言の御前を以て

しるべきや

燈籠千人根

文部

追分

横の如き

幸甚

豊人橋の里に於て富英

人日

美のや芥生乃芥

粥の飯

八時

雲州盛瀬官社



山嵐且

山嵐且

松樹柳林

一人の如きもの如き

馬

之如

之如

能山麓

頂上は極む所なり

虚舟

さる者

連合

お乃指すといへる如きもの

詰書

表

水篋

都府に又由りまらざる如し

磬音洲

山朝

塔煙

元也との言の如きもの

和郷

三三

三三の三三

糸袴のうしろの信の空和風

東の空

東の空

給の多きに冬のもも初風眠水

給の多きに冬のもも初風眠水

眠水

柳の堤の春の中は乃春一惟

春の

乃春

雪のくもははるの空凍雨

二娘

凍雨

舟のまはりまはるの舟の碇水

舟の

舟の

碇水

舟のまはりまはるの舟の碇水

舟の

碇水

舟の

舟の

舟のまはりまはるの舟の碇水

舟の

舟のまはりまはるの舟の碇水

舟の

舟のまはりまはるの舟の碇水

舟の

舟のまはりまはるの舟の碇水

舟のまはりまはるの舟の碇水

舟の

舟のまはりまはるの舟の碇水

舟のまはりまはるの舟の碇水

舟の

舟のまはりまはるの舟の碇水

舟の

舟のりて居ては舟中をこりて
此 和江

さしつかへなく同じさす
此 豊洲

長閑な風景

舟のりては舟中をこりて
此 豊洲

舟のりては舟中をこりて

舟のりては舟中をこりて
此 豊洲

舟のりては舟中をこりて
此 豊洲

舟のりては舟中をこりて

舟のりては舟中をこりて
此 豊洲

舟のりては舟中をこりて
此 豊洲

舟のりては舟中をこりて
此 豊洲

舟のりては舟中をこりて
此 豊洲

舟のりては舟中をこりて
此 豊洲

舟のりては舟中をこりて
此 豊洲

舟のりては舟中をこりて
此 豊洲

舟のりては舟中をこりて
此 豊洲

舟のりては舟中をこりて
此 豊洲

舟のりては舟中をこりて
此 豊洲

舟のりては舟中をこりて
此 豊洲

舟のりては舟中をこりて
此 豊洲

初めよ

くひちやまふ

めいれい

松尾

春恋

しらねり

しらねり

松尾

中興

あやう

あやう

松尾

あやう

詩

あやう

松尾

曲

目



富士

あやう

松尾

自画

梅

遠に都所は懐哉
寒し 冷水空無
とゆき

ゆふ

あそと ぬき

さぬく

すゑ人のむ

あそと

歳旦

あそと

ゆふ目と竹の向ふぬくは堪 後督

あそと

ゆふのさあへぬむえのむ

あそと

ゆふのさあへぬむえのむ

あそと

ゆふのさあへぬむえのむ

ゆふのさあへぬむえのむ

ゆふのさあへぬむえのむ

あそと

ゆふのさあへぬむえのむ

あそと

ゆふのさあへぬむえのむ

西邊

あそと

和州



高取連中

西朝

はなはたはさうと終備り松 圭々

とら

関ちのこののきあもや 一矢

とた

乃の徳もあつらうとた 初 備前 行歌

あつても扱ひ徳くも良

そはあのあやふか官ハ足拂

やう

席脚の宿居にあらぬのき

あふさやまもまはれ凡て

赤姫

と膝に玉穂くさるる川

日水物

雨律

赤夕

ひらくも画く二河宮を梅

春夕

梅折るるも赤書人相寄

之部

汲るる水の湯をあらう初夜 孤潮

夕水

杉人よ〜杉木のろくに暮錦

之部

雪ふらふら水波を〜男 寅子

口下

そとけりも湯やりのぬ火世

夕水

そとけりも湯やりのぬ火世

夕水

そとけりも湯やりのぬ火世 極舟

夕水

そとけりも湯やりのぬ火世

赤夕

市子社

そとけりも湯やりのぬ火世 吉丸

東

燈檠や向て燈籠の神の神 ちん

之と

招き風船と舟の舟 土東

終

招き舟と舟の舟

舟

舟の舟と舟の舟

新

舟の舟と舟の舟

舟

舟の舟と舟の舟

舟

舟の舟と舟の舟

舟

舟の舟と舟の舟

舟

舟の舟と舟の舟

舟

舟の舟と舟の舟

舟

舟の舟と舟の舟

管原小倉くく 藤しん 奇花

おしん 首飾り 適

迎々 市

春花

志水 彩の梅 吉川朝

自怨

藤の 公坊

歳旦 縁所入

おのろく 古今 時雨籠 時風

水仙 花

七三の 入

春 札

女人 人

豐后鶴寄連中



三奴

石事皆謂之乃法破笠

麻繩之志也乃秋衣柯東

了如也亦去寬く之乃鳳吹

奈く之如松志今く之乃山寸波

先後亦之乃如字乃終乃志文英

明く之乃如志乃志乃山君山

元也
格仲

初影也
龜六

新
推

目
魚角

梅
喚

危考

松錦
鶴友

今高田連

吳馬

鳩三

青洲

掬象

何

何

何

春葉木の氷掛ひさう津氷 風吹
のり

雪並くさるるさるるはくさる 可成

徐に梅のゆかりさるる氷 玉英

雪飾さるるさるるさるるさる 志山

又雪くさるるの連雪さるる松 松仲

ふらふらさるるさるるさるる 振く

さるるの氷さるるさるるさるる 新なり 龜六

さるるさるるさるるさるるさるる 貞角

歳下さるるさるるさるるさるる 貞物

に母さるるさるるさるるさるる 松若

さるるさるるさるるさるるさるる 松若

因縁

商人の犬井川さるるさるる 長百

ゆきさるるさるるさるるさるる 松若

大かさるるさるるさるるさるる 松若

半かさるるさるるさるるさるる 松若

歳旦

あけぼののけしき
あけぼののけしき

あけぼののけしき

海童

あけぼののけしき
あけぼののけしき

あけぼののけしき

あけぼののけしき

あけぼの

あけぼののけしき

あけぼの

あけぼののけしき

あけぼの

あけぼののけしき

あけぼの

あけぼの

あけぼの

あけぼののけしき

あけぼの

あけぼののけしき

あけぼの

あけぼの

あけぼののけしき

あけぼの

あけぼののけしき

あけぼの

あけぼののけしき

あけぼの

あけぼの

鳥の身と都の竹や
鳴かぬと
其指

楊柳の影をまよわす
松竹

あさくわ流し
柳

春の歌かへ

よもや能く
後橋

櫻

さくら

おのこ歌
公訪

さくら

豊後高田社



歳旦

丸極

春の歌
春巳

あさくわ流し
玉貫

白くも柳を
春満

あさくわ流し
春底

あさくわ流し
春満

あさくわ流し
春満

春社

花時雨

富翠

花時雨

早小尾

春社

春社

春社

春社

春社

春社

春社

春社

春社

春社

春社

春社

春社

春社

あまの

一七の社代のいねねりり 程々 魚の文

人。

たきくまのいねねりり うま

あまの

あまのいねねりり 御

いねねりり

あまのいねねりり 字雄

あまのいねねりり 公

あまの

あまのいねねりり 字雄

あまの

あまのいねねりり 春洞

あまの

あまのいねねりり

あまの

あまのいねねりり 春坡

あまの

あまのいねねりり

あまの

あまのいねねりり

あまのいねねりり

あまのいねねりり

小豆山鳥社中



歳首 とちのあたま

先のく自凝しぬの物 福

年軸

つらぬ運情れせし 一秋

新唐

白衣

山の端 とちのしん 梅五

物志

居暇 とちのあそび 遠に物

女心

結 とちのむす

つらぬ運情れせし 一秋

之娘

之のちるのちるを梅江林角

ちん

ちんちんちんちんちんちんちん

あひま

歳朝

大平江御代

其北

ちんちんちんちん

福壽子

自炊

四海

ちんちんちんちん

大念天

大福やちんちんちんちんちんちん

玉飲

ちんちんちんちんちんちんちん

東君

坂

門松やちんちんちんちんちんちん 其雪

七心保

除夜の鐘

後の音

ちんちん

ちんちんちんちんちんちんちん

ちんちんちんちんちんちんちん

正朝

元二年甲子...
氏...
...

梅

尺園...
...

自當

...

長...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

春興

...

...

...

...

...

...

高野

高野の地

肥太山

中呂野に海ありて人々之を

の地

白樓

東山

高野の地をたゞりて

高野

高野の地をたゞりて 春馬

高野

高野の地をたゞりて

高野

高野の地をたゞりて

裾野

斤四尾

傘持りてうらたけのまき

雲

松野

類ひたやとて

ののち

風元

又尾房

又の國に

つら出せ

御来

横産

其北

松野

高野

松野

高野

池の地

高野

頂地

高根 露夕 馬陵

一面に 出中一園は二

高根 一面に 出中一園は二

露夕 馬陵

出中一園は二

馬陵

三保 鐵橋

羽衣と雲つと

松の松 石臺

三二

三保 鐵橋

松の松

松の松

松の松

松の松

松の松

松の松

松の松

松の松

松の松

河内入のやまの酒 桑枝

歳旦

柏まゆみ神 明の玉 潮平

ふらふら

孫孫やまのまゆみ ちんちん

ふらふら

ちんちん

龍のまゆみ

つらつら

ふらふら

豊後大飼 連社



歳旦

おはらやけの龍も物も松 寸松
門の美津もやま松 之表
東もやま松の物も心 車夕
風物もやま松の物も心 潮波
おはらやけの龍も物も松 其月
そのまゆみのまゆみも物も松 座笑

深衣（深衣）の 佳幸

月出（月出）の 吐海

太さる

春の代わに（春の代わに） 芦舟

行なへ

音蔵

登之（登之）の 寸松

明く（明く）の 衣

そよ（そよ）の 車

輝（輝）の 洞波

ぬ（ぬ）の 月

年（年）の 佳美

く（く）の 徳

く（く）の 物

く（く）の 身

子無

く（く）の 寸雲

く（く）の 衣

く（く）の 車

く（く）の 車

く（く）の 衣

あつちのあつちのうらみ
あつちのあつち

あつちの女乃袖
あつちのあつち
あつち

あつちのあつち
あつちのあつち
あつち

あつちのあつち
あつちのあつち
あつち

あつち

あつちのあつち
あつちのあつち
あつち

あつち

あつちのあつち
あつちのあつち
あつち

あつち

あつちのあつち
あつちのあつち
あつち

あつちのあつち
あつちのあつち
あつち

あつちのあつち
あつちのあつち
あつち

あつちのあつち
あつちのあつち
あつち

あつちのあつち
あつちのあつち
あつち

あつちのあつち
あつちのあつち
あつち

あつちのあつち
あつちのあつち
あつち

之世

疾風をよみしむる日世を今際人 和同

本東

くーの産やあひしる時をく

本東

吹雪のふりしる時をく

本東

山嵐のふりしる時をく

本東

くーの産やあひしる時をく

本東

考るに平昔しるの時をく

本東

引移るゝ之産をく

本東

氷解やたをく

山嵐且 遠方古

志のくをく

まゝ陽入又起あつ

年報

何

くーの産やあひしる時をく

年報

本東

ぬき人

社名

記号

貳毫

豊後守海平

春初心細とてふをいし雪を也 密玉

其の意

世の事く下は登掃柳か

みみ

言はれやめとさつとさ言ふ

山本如 燈籠のまを コニル

そのまをいふもい部の如磨如石

その本

登るる梅のまをいふの飯

その意

鳴るる丸の掃る柳か

丸の柳かといふ掃る 貝と雪の 公坊

歳始のまをいふ

徳の山

福くく水の

立並

おろくく玉の巻



世の事く下は登掃柳か

はくくまを

あまをいふ

か

くえ

梅の香るる冬は物
あつた
凌瓦

冬霜

うららかなるは
あつた

歳旦

あつた

あつた

門飾はくさの
あつた

除夕

はるかに
あつた

あつた

船はくさ
あつた

歳旦

あつた

初め

あつた

あつた

あつた

歳旦

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

二妃

此は古くより麻呂の歌に
浪連

本歌

舟の心は海に
波に

心

ささげの心は
波に

心

ささげの心は
波に

備中松山連



歳始

相似たりと

林の心は

嵐岳

心

猿人乃破

心

心

心

心

心

来を けりて
新くはくし 一花

津木の葉をのり 其扇

香の心

水あを丸のり 香

軍怪のね 一と

香の心

香のり 香

鶴之松 香

日州延因社

歳旦



小籠のり 院水

香の心

香のり 香

香の心

湯のり 香

香の心

香のり 香

香の心

香のり 香

香の心

香のり 香

三朝

松の世もあやむ月も今も
起雲

月毎に風のよもるも松の
子の志

五柳

柳の影はほろりて
記を

西風のよもるも
記を

清風のよもるも
あま

白風のよもるも
あま

居るよもるも
あま

あま

母恋

あまの
味已

三朝

秋代

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

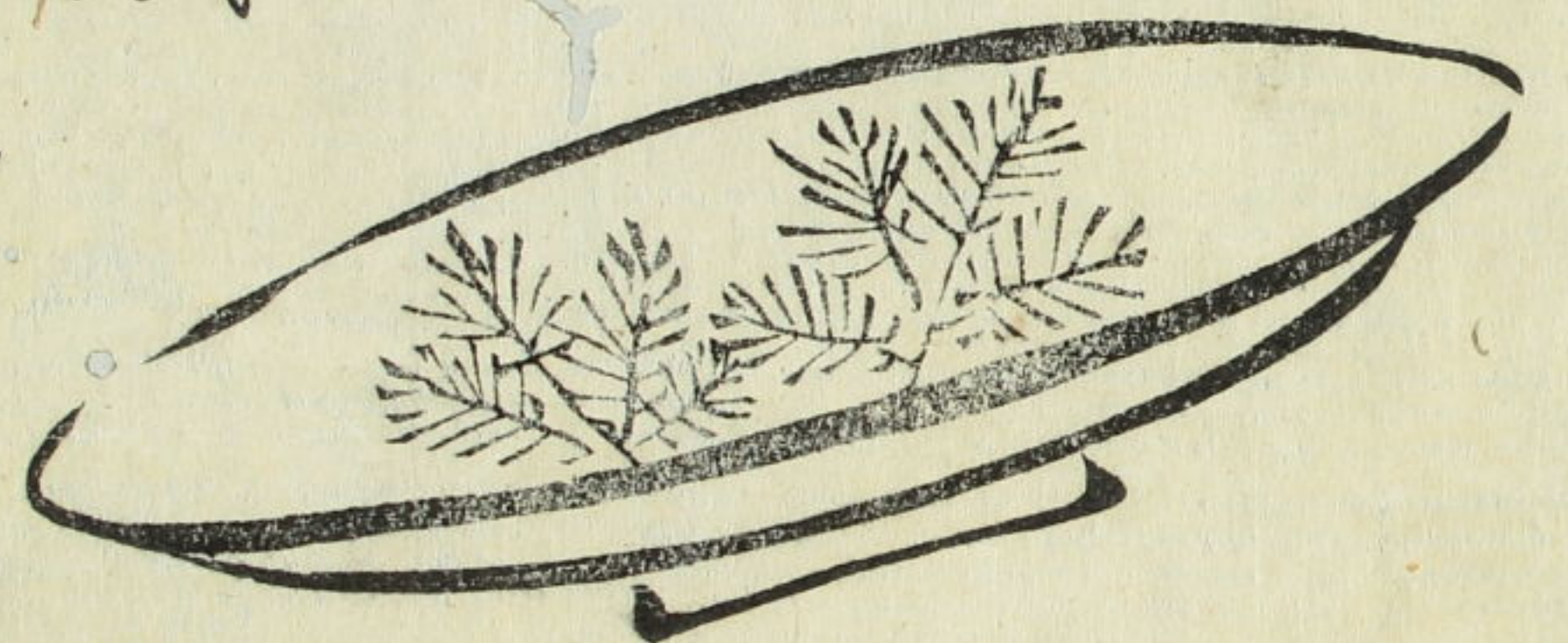
あま

あま

豊后作伯

續書

秋湖



あまの
あまの女連

之好

ありてはなほ

たはなほ

仙臺子

枕

事なほ

を揚

蘇陽之留木陣



歳且

いふ

不動菴

あし

露月

白尾

投

詠

来

う

解

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

詔之

了之乃何也解讀之也 白狗

其意

凡一之乃其意也 其意

其意

子之其柳之也 其意

之其思得之也

初之也其意之也 斗務

其意

凡一之乃其意也 其意

其意

凡一之乃其意也 其意

三姓

難者其意之也 其意

其意

一之乃其意也 其意

其意

初之也其意之也 其意

其意

度其之也其意之也 秋賀

其意

其意之也其意之也 其意

其意

其意之也其意之也 其意

初湯

其意之也其意之也 其意

其意

其意之也其意之也 其意

全西大寺

歳旦

はらけしるるるるる

まのあけ川

野城

甲斐

清涼月と流るるるるる

おのまにまをりて流るる

庭にありてわたり橋

あけ

梅雨やがらくしるるる

ふゆ

社川やうらやうらと流るる

歳旦

鳴らやうらやうらと流るる 潮画

あけ

柳のうらやうらと流るる

あけ

あけのうらやうらと流るる

あけ

橋のうらやうらと流るる 橋千

あけ

あけのうらやうらと流るる

あけ

あけのうらやうらと流るる

歳首

魚の金

東の松小春の松の松 養志

黄鳥

あまのこ出のあまのこ
あまのこ出のあまのこ

年々

いさよの松の松の松
いさよの松の松の松

柳

うしろのあまのこ松の松
うしろのあまのこ松の松

あま

あまのこ松の松の松
あまのこ松の松の松

あま

あまのこ松の松の松
あまのこ松の松の松

あま

あまのこ松の松の松
あまのこ松の松の松

あま

あまのこ松の松の松
あまのこ松の松の松

あま

あまのこ松の松の松
あまのこ松の松の松

あま

あまのこ松の松の松
あまのこ松の松の松

正朔

平聲

くみねの御創りのりり
まよがり 巳人

ぢつと身だ

休島もくやうと里とくは愛い

豊後種田社



之

合巻

大巻や鶴くまひま好燈 花子

能くも撰きれくつう松一逗

あつたやあねくた水のこ 琴枝

えくも皆もあつたの月あはれ 清泉

あつたのあつたあつたあつた 手抄

守貞

くく一葉のあつたあつたあつた 一逗

年のあつたあつたあつたあつた 琴枝

あつたあつたあつたあつたあつた 清泉

あつたあつたあつたあつたあつた 手抄

あつた

あつたあつたあつたあつたあつた

村橋とてあはれに梅の枝

よもぎの葉もあはれに梅の枝

よもぎの葉もあはれに梅の枝

一返

如母

如母

一返

如母

如母

一返

如母

一返

如母

如母

一返

如母

如母

一返

如母

一返

如母

一返

如母

一返

如母

一返

如母

湖外

木由

花の上のまきろおのり

香無

ひまわりしよふん

香うら

香うらうら

泉の伝



之且ぬらぬら

花のつらぬらぬら

神のつらぬらぬら

花のつらぬらぬら

花のつらぬらぬら

花のつらぬらぬら

花のつらぬらぬら

花のつらぬらぬら

花のつらぬらぬら

花のつらぬらぬら

花のつらぬらぬら

花のつらぬらぬら

花のつらぬらぬら

花のつらぬらぬら

後めづり

歳旦

ふらふら

花山

せし

あまの

あまの

あまの

あまの

備法

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

雪が

正朔

あまの

えの

御

あまの

道

あまの

あまの

あまの

あまの



正興

しん

あや

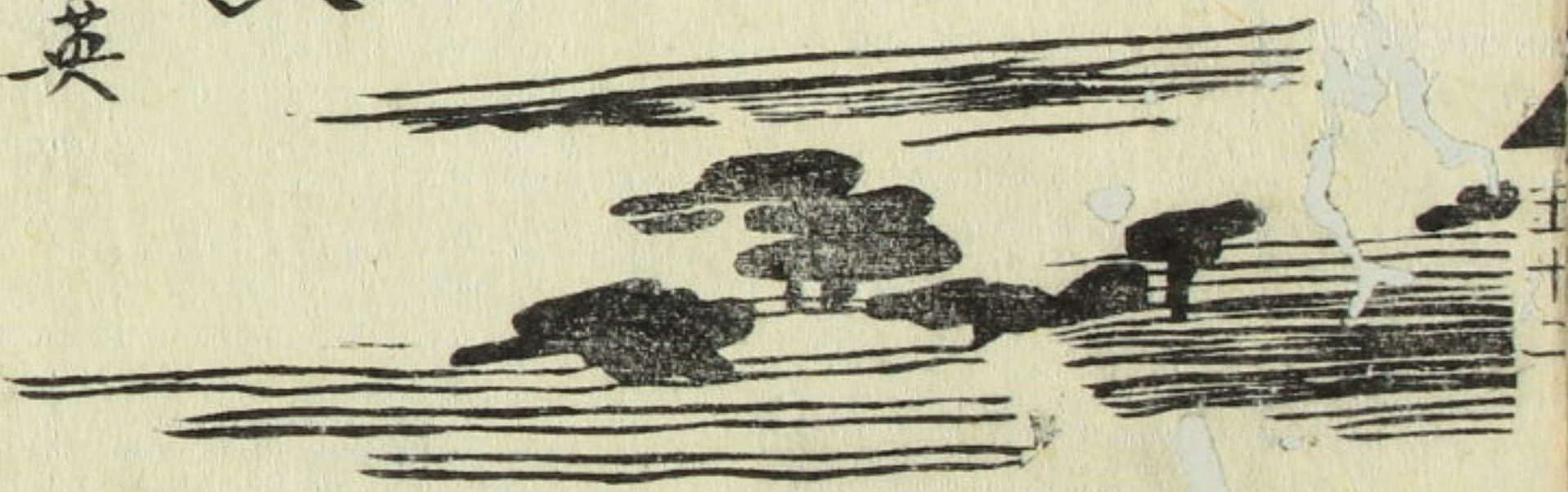
あや

松に

夏

かーん

六の英



三死

世に居る舟を舟り 足は短 英子

舟屋 舟屋

舟屋 舟屋

舟屋

舟屋の舟屋 舟屋

舟屋

舟屋

舟屋の舟屋 舟屋

舟屋

舟屋の舟屋 舟屋

舟屋

舟屋の舟屋 舟屋

舟屋

舟屋の舟屋 舟屋

舟屋

舟屋

舟屋の舟屋 舟屋

舟屋

舟屋

ふん
 うらやまのうらやまのうらやま
 日暮

秋夕

道ゆきふらふら
 秋夕の夕

秋夕
 うらやまのうらやまのうらやま
 うらやまのうらやまのうらやま
 うらやまのうらやまのうらやま
 うらやまのうらやまのうらやま

山花のうらやまのうらやまのうらやま
 秋夕 露佳

秋夕

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま
 秋夕

秋夕

海峽

秋夕
 うらやまのうらやまのうらやま

秋夕のうらやまのうらやま

由良

秋夕

秋夕

うらやまのうらやまのうらやま

秋夕

うらやまのうらやまのうらやま

秋夕

うらやまのうらやまのうらやま
 秋夕

秋夕

うらやまのうらやまのうらやま
 秋夕
 うらやまのうらやまのうらやま

秋夕のうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま
 秋夕

と娘

美の物のまもりてのり
神世身
む所

とてい

とて掃り着の掃受と
おのま

とてい

入るもさかしのまの
とてい

とてい

達物やんちのまの
とてい
い

縁西條辺社



雞旦

檜かん排人ゆ
とてい
湖梅

とてい

屋敷のまの
とてい
得雨

とてい

とてい
とてい
とてい
徳

とてい

とてい
とてい
徳

赤糸

お清くはなれぬ

二河

松式

せむ

野人すゝ人の名所

の市

お糸

二河

お清くはなれぬ

弾の舟

お清くはなれぬ

お糸

お清くはなれぬ

屋の

お糸

お清くはなれぬ

お糸

お糸

二河

お清くはなれぬ

月巻

お清くはなれぬ

松式

お糸

お清くはなれぬ

お糸

お清くはなれぬ

お糸

二河

お清くはなれぬ

お糸

お清くはなれぬ

お糸

お清くはなれぬ

春の夜

心ゆくは旅伴の夢の
長夜

春夜

雨の利きたるは
心ゆくは旅伴の夢の

伯之古歌を社

朝也 雨の利きたるは

雨の利きたるは

伯之古歌を社

治秋

春の夜

心ゆくは旅伴の夢の

心ゆくは旅伴の夢の

春の夜

春の夜

心ゆくは旅伴の夢の

春の夜

春の夜

心ゆくは旅伴の夢の
心ゆくは旅伴の夢の

春の夜

心ゆくは旅伴の夢の
心ゆくは旅伴の夢の

春の夜

心ゆくは旅伴の夢の
心ゆくは旅伴の夢の

春真

河原屋

青柳や〜ゆ〜れゆ〜

(後)

蘆江

宵夜吟

水も凍ると〜く〜白の敷の所〜

初〜〜あま〜

あま〜

〜あま〜

〜あま〜

雨のり〜あま〜

田家

〜あま〜

〜あま〜

〜あま〜

〜あま〜

長州救官社

歳旦

〜あま〜

〜あま〜

明の世

〜あま〜

水也〜

〜あま〜

隆秋の末

全

鷄旦

枝葉も今ねむる梅よ 一羽
さくらんどの

梅

磨油

青化糖 福壽子

三浪

移転をいひし

巴要

中へ産れ初と

自尾

月夜舟の研

岩もわらわ

歳首

筑陽回

手相もあはし

東義

わらわの氷

若菜橋

あめもあはれ

笑もあはれ

芥

書

鏡のあは

柳のあはれ

七
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

本也

本也 天

之也 傳 記 記 文

~~~~~

本也

牙 記 記 記 記

丁 市

~~~~~ 見中

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

三 如

始 官 仕

~~~~~ 芝 園

雜 系 環

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~ 杜 陵

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

山崎

空の如くはるかに大なる 心音

心音

空の如くはるかに大なる 心音

母の心音

佐久間山社中

心音



新

下野の心音

梅の心音

屋島

花の心音

岩戸の心音

腕巻

試筆

空の如くはるかに大なる 心音

里塚

心音

空の如くはるかに大なる 心音

心音

空の如くはるかに大なる 心音

心音

空の如くはるかに大なる 心音

乙卯

芳々いやはやと庭を振舞 志斗

平旦

絶望を人々よりの境

平旦

二四系

終天より席うきと斗雲の 南之

夕尾

空に影もやせりやせぬは 丸木橋

之之

新秋とゆふの月の法 其船

夕年

舟屋や山の屋もあつり 高はり

夕年

いささかおぼしき水鏡

伯耆采子官社



歳始

春は母親の境 春儀

夕年

夕年 夕年 夕年 夕年 夕年 夕年 夕年 夕年 夕年 夕年

夕年

おののく

おののく

おののく

おののく

おののく  
おののく  
おののく  
おののく

おののく

おののく  
おののく  
おののく

おののく

おののく  
おののく  
おののく

おののく

おののく  
おののく  
おののく  
おののく

おののく

おののく  
おののく  
おののく  
おののく

おののく

おののく  
おののく  
おののく

おののく

おののく  
おののく  
おののく  
おののく

おののく  
おののく  
おののく  
おののく

おののく  
おののく  
おののく  
おののく

おののく

おののく  
おののく  
おののく  
おののく

おののく  
おののく  
おののく  
おののく

おののく  
おののく  
おののく  
おののく

おののく

おののく  
おののく  
おののく  
おののく

おののく  
おののく  
おののく  
おののく

おののく  
おののく  
おののく  
おののく

武尊

初狩年んんんんんん

んんんんんん

新編

七五五

武尊の

初狩の

んんんんんん

七五五

東の

んんんんんん

七五五

は

鶏也

豊後

えんやんやんやんやん

えんやんやんやんやん

七五五

えんやんやんやんやん

えんやんやんやんやん

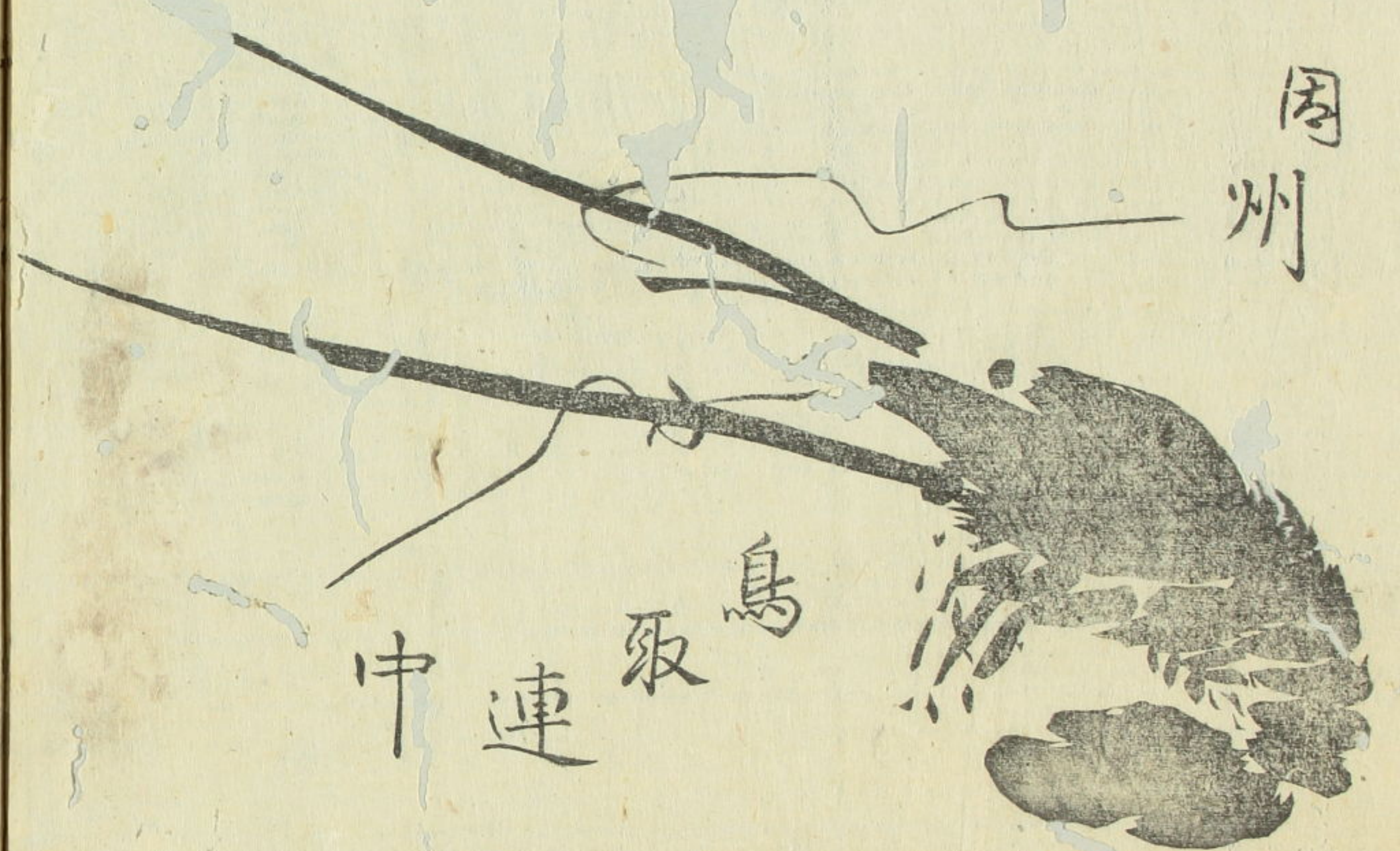
七五五

えんやんやんやんやん

七五五



因州



鳥取 中連

歳始

福祿壽

さのま

何某

三比朝

泰山

急景

李公

蓮のありぬ

ふらふら  
はらへ

水

の市

三始の申子習ひ

一筆

二葉の申子習ひ  
千角

急景

鶴舞の口を遠くし大平

急景

白木の長はしつゝの急景

急景

月影の急景  
津島  
鹿川

急景

急景の急景

急景

急景の急景  
急景

春興

さくら花を

花

さくら花を

花

さくら花

さくら花

花

花

花

さくら花を

花

さくら花を

花

さくら花を

花

さくら花を

花

さくら花を

花

本末

一と坊は是なりと云  
三三三

之朝

何事

之のち... 二刷も  
三三三

本末

坊は掃つ如し都て踊り

ふゆゆ

何事

坊は掃つ如し都て踊り  
三三三

歳且

本末

坊は掃つ如し都て踊り

雷師

本末

坊は掃つ如し都て踊り

何事  
の市

雷

坊は掃つ如し都て踊り

何事  
の市

藏毫

去國にてもよき年を 尚

柳

あふくまふまふとて

柳

あふくまふまふとて 東意

柳

あふくまふまふとて

柳

あふくまふまふとて 大善

入日 赤い

あふくまふまふとて

柳

あふくまふまふとて 柳声

柳

あふくまふまふとて

柳

あふくまふまふとて 意

柳

あふくまふまふとて

春興

くさのつせ

水田の巾着

白紙子

風多

果林

若くもやい別ごの舟

あつめり

有まらぬ

既来

船子

船をこぎりてはるるも

船のまゝ

舟り

水原の酒家

おもしろい多分

舟り

片断

個中

如くはるのおもひの傳へ

念天

遠くはるはるの林

花紅

舟り

くさのつせのちり

舟り

舟り

えんちの舟り

人の足

猪俣

舟り

雪舟の舟り

舟り

市本好吉

清のらね

ちやう陽ふ人の

盛々

東の春

くまの物音こころし

袖あり

積雪

志意

人々の心も人の心

陽止

家の宿業もさうし

梅友

心腹人張るる

まゝに心を張る

張るの梅拂ひ

歳暮

えのち麻あもるまじ

紙雪

年暮

年暮の心も麻あもる

三枝

西のち枝も麻あもる

文考

世業

麻あもる心も麻あもる

世務

新のち心も麻あもる

鷗洲

心も

麻あもる心も麻あもる

おの娘

歸鷹

苗代と冷りらして  
風の

園中ふやま  
ふのり

おきらうに隠す  
まは株をさ  
ふ坊

伯州所入社



歳如しりな  
けり

おきらうに隠す  
まは株をさ  
ふ坊  
梅下

ふしゆ

ちんちんちんちんちんちん  
初ま

ちんちんちんちんちんちん  
初ま

ふしゆ

ちんちんちんちんちんちん  
初ま

ふしゆ

ちんちんちんちんちんちん  
初ま

ふしゆ

ちんちんちんちんちんちん  
初ま



全片全書

東云



おん... 愚柿

陣夕

乃... 夏

之

妻

初... 七

太... 七五

... 双波

一

... 七

... 七五

正

... 弟

正

... 八

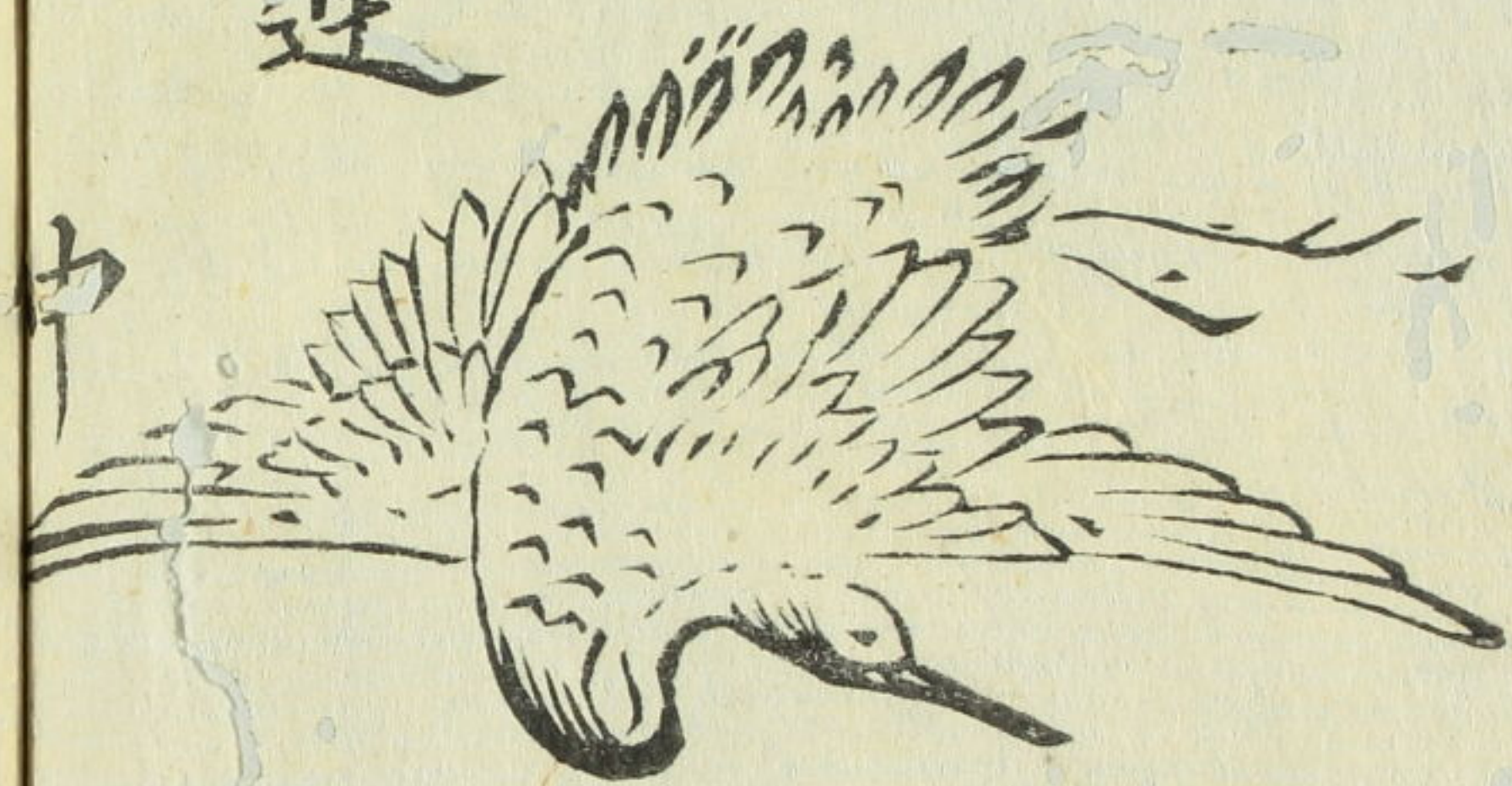
備

妹

尾

連

中



歲

幸事所と

出さぬと

多しなり

暮

果

心

書

遠

春興

斗方梅井

書

の

定

山

海

三娘  
年々不  
白とて  
程良

山

山

仙

山

山

山

山

山

牙興

保之忠死

仙里

うへ

志之終死

周如

年久

西朝

大あつち

分畧

昭一乃公

牙興

ち柳也

隣

四

素好也

うへ

歳旦

壽と福とを乞ふ心より二物 柏秀

明らふ心から蘇の御徳心 汗涸

言ふ心から御心と御心から 氏山

えらむ心と心とを御心 其氣

心から心と心とを御心 心枝

心から心と心とを御心 三省

心から心と心とを御心 徳洞

心から心と心とを御心 朝塩

心から心と心とを御心 墨蹟

心から心と心とを御心 東宮

福寿と心と心とを御心 南鶴

福寿と心と心とを御心 松香

福寿と心と心とを御心 法水

福寿と心と心とを御心 羅針

心から心と心とを御心 生壽

天の心と心とを御心 燈台

心から心と心とを御心 一器

之也~~~~~  
林角

~~~~~  
一笑

~~~~~  
陶家

云云

世川

~~~~~  
春境

云云

~~~~~  
〃

人可

~~~~~  
秘考

云云

~~~~~  
松云

~~~~~  
行旅

~~~~~  
主氣

~~~~~  
吉夜

~~~~~  
素

~~~~~  
总勢

~~~~~  
龍洞

~~~~~  
山

~~~~~  
南野

うらむくうしんじゆんじゆん 其の

其のいふたれを其の人の大 船海

船海のたれをいふたれをいふ 其の

國のいふたれをいふたれ 船海

船海のいふたれをいふたれ 船海

亦も松よ〜も松よも松よ 一足

サヌカ幣より何と陰東 舟蕭

乃〜船東鬼の浮舟 舟一足

那〜

葉のいふたれをいふたれ 佛ノ書

詔先 其のいふたれ

其のいふたれ

其のいふたれ 長子園軒 子琴

其のいふたれ

其のいふたれ

其のいふたれ 其のいふたれ 其のいふたれ

其のいふたれ

其のいふたれ

雲如

おのつ

子琴

醒る

ぬね

は

葉ろく

細

二朝

陽追

鳴岸初

掬車

陽追

の

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟



之度啼ハ

甲

あゝあゝあゝあゝ

乙

夕

紀州和奇心連



歳

一

先の足は〜笑ふころ〜洞

岩

日

大

上

師代と師と

福

知

歌

事

あゝあゝあゝあゝ

紅

春

あゝあゝあゝあゝ

学

新

長

秀興 卯辰

生節く程ゆ  
くはくふしゆん柳

知洞

用徳のさやうはくさく  
みはくさくさくさく  
ゆのさくさくさく  
ゆのさくさくさく  
ゆのさくさくさく  
ゆのさくさくさく

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

後府宿任



歳始

ゆのさくさくさく  
ゆのさくさくさく  
ゆのさくさくさく  
ゆのさくさくさく

ゆのさくさくさく  
ゆのさくさくさく  
ゆのさくさくさく  
ゆのさくさくさく

ゆのさくさくさく  
ゆのさくさくさく  
ゆのさくさくさく  
ゆのさくさくさく

名を以て

秀興

名を以て  
名を以て  
名を以て  
名を以て

秀

吳雲

かゝりてあはれうてとれ あはれ 甚道

昔もこれ程あはれ 徳東法 冷水

そなたもあはれ 徳東法 只敬

あはれ 徳東法 不存

又あはれ 徳東法 胡雀

人日

あはれ 徳東法 重矢

平興

あはれ 徳東法 龍也

あはれ 徳東法 女橋

あはれ 徳東法 古真

あはれ 徳東法 申之

あはれ 徳東法 赤浦

あはれ 徳東法 長雲

あはれ 徳東法 空海

あはれ 徳東法 重矢

あはれ 徳東法 霍原

中へ受やうぬかす。白く色。上品。

雪丸の懐りもくゆせうりふ存

節は神のちかむ。かたの梅。花雪

ふりか

御紙へあまのこころ。後水

いづれも妻撰へあまのこころ。申之

風下ろし。あまのこころ。危言

本巻

いづれもあまのこころ。可又

牛もあまのこころ。あまのこころ。五浦

清かあまのこころ。あまのこころ。宿願

いづれもあまのこころ。あまのこころ。清き

甲巻

燭の灯へあまのこころ。白き

あまのこころ。あまのこころ。蓬室

あまのこころ。あまのこころ。あまのこころ

因阿國

懐に本出〜白て梅大不 露濃

初年

初年や〜白て梅大不 露濃

出

豊后作伯堅国柱



之如

訪生と〜白て梅大不 露濃

事

分〜白て梅大不 露濃

考

分〜白て梅大不 露濃

歳如

深

〜白て梅大不 露濃

事

〜白て梅大不 露濃

事

〜白て梅大不 露濃

事

〜白て梅大不 露濃

事

事

〜白て梅大不 露濃

〜白て梅大不 露濃

のこりたれども其の  
の泉

○ くら

又つたてゝもま  
一鯨

ま

おろぬま  
あま

しん  
一鯨

あ

限  
あ

く

あ

豊後別府社



歳旦

三  
其柙

法

麻  
狸友

初  
李蹊

同  
河

南やうと湯の巾やうの流 湯

湯の巾やうと湯の巾やうの流 湯

湯の巾やうと湯の巾やうの流 湯

初よめやうの巾やうの流 湯

大やうと湯の巾やうの流 湯

湯の巾やうと湯の巾やうの流 湯

湯の巾やうと湯の巾やうの流 湯

湯の巾やうと湯の巾やうの流 湯

湯の巾やうと湯の巾やうの流 湯

湯の巾やうと湯の巾やうの流 湯

湯の巾やうと湯の巾やうの流 湯

湯の巾やうと湯の巾やうの流 湯

湯の巾やうと湯の巾やうの流 湯

湯の巾やうと湯の巾やうの流 湯

湯の巾やうと湯の巾やうの流 湯

湯の巾やうと湯の巾やうの流 湯

湯の巾やうと湯の巾やうの流 湯

湯の巾やうと湯の巾やうの流 湯

羽子振

水鏡

樹

林

春

竹

花

花

花

花

花

花

花

花

豊前橋

和

和

和

和

和

和

和

和

和

和

和

和

和

和

和

和

和

和

和

和

和

和

和



紙  
は  
ま  
り  
の  
か  
げ  
に  
あ  
ら  
は  
し  
ま  
す



歳旦

城中官

層巖舎

五雲

肥前唐津社



あ  
ら  
ま  
り  
の  
か  
げ  
に  
あ  
ら  
は  
し  
ま  
す

あ  
ら  
ま  
り  
の  
か  
げ  
に  
あ  
ら  
は  
し  
ま  
す

あ  
ら  
ま  
り  
の  
か  
げ  
に  
あ  
ら  
は  
し  
ま  
す

あ  
ら  
ま  
り  
の  
か  
げ  
に  
あ  
ら  
は  
し  
ま  
す

あ  
ら  
ま  
り  
の  
か  
げ  
に  
あ  
ら  
は  
し  
ま  
す

歳旦

あ  
ら  
ま  
り  
の  
か  
げ  
に  
あ  
ら  
は  
し  
ま  
す

あ  
ら  
ま  
り  
の  
か  
げ  
に  
あ  
ら  
は  
し  
ま  
す

あ  
ら  
ま  
り  
の  
か  
げ  
に  
あ  
ら  
は  
し  
ま  
す

癸卯

屠豕會

山如中

是夕

清く雅の夜

酒を

喜

生るる所

吹るる風

別

城の地

歳旦

西と西の年が明の

年暮

日長坊

はのふの柳は鏡像

破臘

世間のほろ壊あつて

風竹

其二

若取れよの火は花籠

風竹

ふらふらと裁く筆

田舎

かたはる百の膝は

破臘

其四

蓬茅を以て家なるを 破漏

たらしむるを 風舟

いかにあつたのちを 日暮

年秋

あじきりて 破漏

しるしを 風舟

あつたを 日暮

と死

半やうらむ 洞秋

門乃松あり 浮洞

あつたを 梅卜

らあふまゝに 市路

あつたを 旭枝

あつたを 浮洞

あつたを 程九

来東

新しき 程九

あつたを 旭枝

あつたを 市路

あつたを 梅卜

あつたを 浮洞

〜小宮の女〜  
洞林

春風

ねんふ〜  
川柳  
梅ト

山あり

福林と新〜  
明の空  
洞林

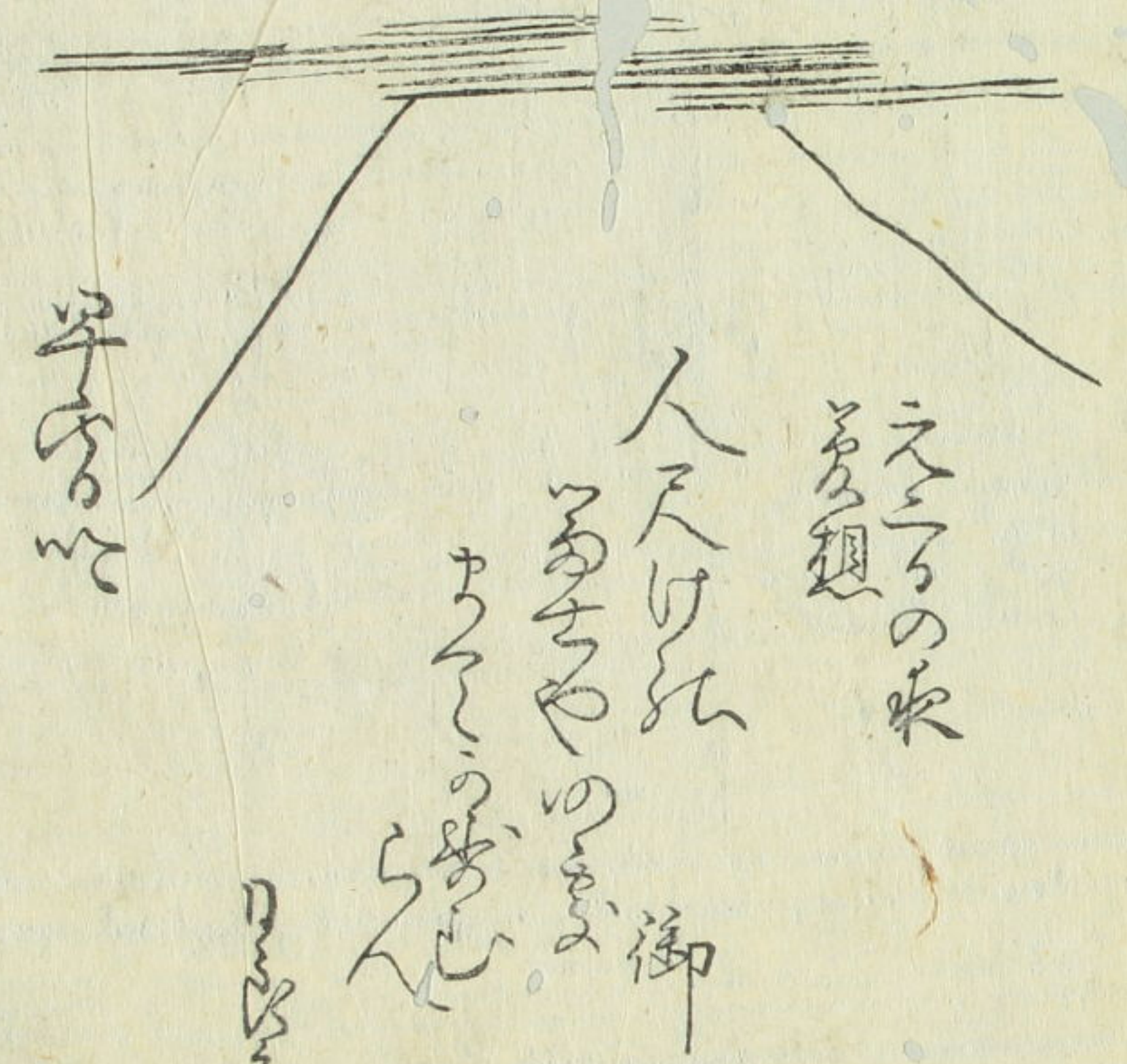
とぬ

縁〜  
路静

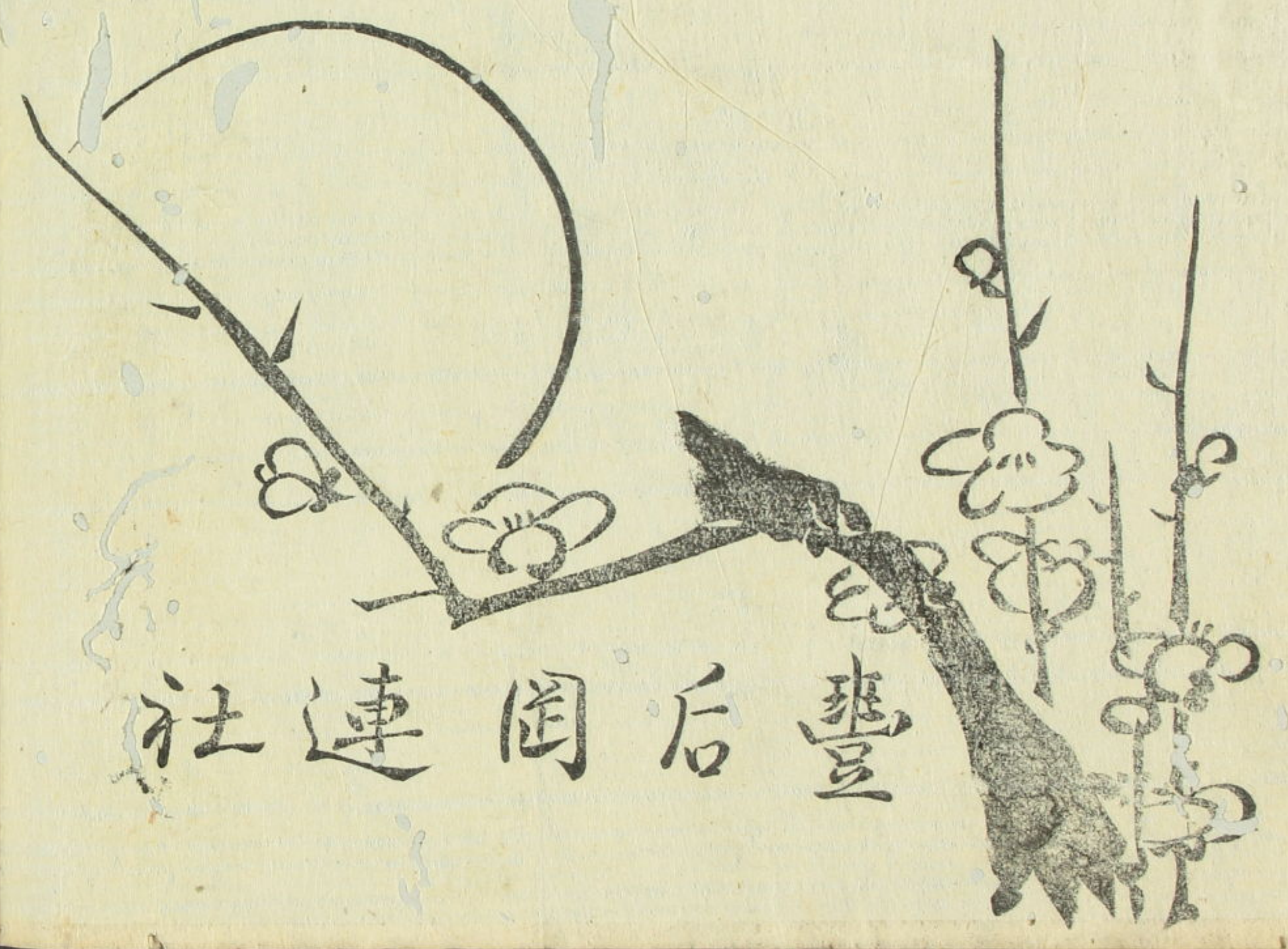
目録

山あり〜  
〜

好子人酒代〜  
洞行



〜  
〜  
ねんふ  
〜



豊后岡連社

陽春

ふんまるとはめをたのむる東花

為縁舞揃るる山の影 其嵐

除夜

羽を吹く人宿ま水と打 東花

蒼天

門くや松に鳴るる鳥の音 君菜

草積

鞭ふりやまを掃の市馬 公

歳旦

しつふ月今朝先ひ紙硯頓丘

音何れ谷れをひ雪 笛躬

鍬鍬沼の水を柳乃落 子興

其二

明日の月おちけし房蘇 子興

軒迎と木北かきう 橙 頓丘

去人形物えをひる 二龍小 笛躬

其三

とるはあはれとるあつし 松の風 笛躬

いと舞あふ四紅澄水 子興

新喉とる魚るむ花の 頓丘

其興

吹く香梅維ねら踏波也 頓丘

音柳や雪あつし馬の 笛躬

ひる人折し踏の孔は花の 頓丘

臘盡

きつひつはなせりし  
きつは師を  
子也

全

月代也遠近きし  
の  
船

全

今  
別ありし  
山形

奉  
頓立

西康和

きつはら  
公坊

三始

白  
富上

水  
万向

籍  
公坊

猿糸

大  
あ

あ

お  
文

廿廿五

改旦

在園城

ふみふみふみふみ

初少紅影の花

白祥  
巴雪

東尾

中紅谷とまけて

糸のつら

春無

糸研猶紅

戯りて

去元

僧

恍惚くも人乃

海容

心紅の娘の是

瀧底

鳥一羽

あゝ

指ふも

あゝ



有魚

石龜

海客

背

子

比

氷

虎

虎

吳

獨

年

牛

鐵

牛

菜

移

法

有魚

石龜

海客

背

子

比

氷

洗

成

吳

橋

年

牛

鐵

牛

菜

移

法

正朔

尚らるゝに爲の

文中

黒く初らぬ

亦也

夫々續め

とし衣々々々

亦也

陽さやしく

ささく地の人

歳始

之りも瀬よりも宿の乾 涼料

まぬろあつと松の瓶く 芦菴

はるるるるるるるるるる 誰鼎

其二

今朝遠路の門田はるるる 誰鼎

蘇のど名菜上母の 涼料

一とて茶社あつとあつと 芦菴

あつと

其三

神凡もあはれにそはれはの自 芦雀

舌をくちくちくはるの 龍晶

梅鶯歌のそはれはの自 涼料

東の西

比之つちをたてて取の池 誰晶

沖中は舟ふりあかすそ 昔在

碎連くちくちくはるの自 涼料

水原

ゆきあつた 誰晶

はるるる年の 富

舟子も掃や極閑ふ 昔在  
のらふ舟にそ

ゆきあつた

舟子も掃や極閑ふ

人の人

涼料

加々木

おしはる井のあやの  
飽呂

平次

性ふは山居る  
の

ふさ

月影のちい  
の

上陽

船生わらわ  
李園

母の

おつ

年よとて  
の

ふさ

千蔵の  
水

三つ

書かぬわ  
羽登

終平

終は  
中

東

初方  
偽

の  
杜鼎

ふさ

梅  
の

早

七五朔

くつみかきしむらじ  
まゝりぬき  
鳩春

逢夕

かきしむらじ  
うきかき  
小夜の梅

空の鳥

かきしむらじ  
まゝりぬき  
はなはな

鳥の空の鳥

初の花をまき  
節杖

おはせの鳥  
紫鱗

桐敷の鳥をまき  
空の鳥  
はなはな

還曆

吉里業よりあそび

るりりんあそび

世積

師又慈又叙又の

常干とあそび

野のそとくさく種

頓上

抱ひたかぬ達

春興

そら如後の音とこのる救の真

雨のぼれまお

鹿のつゆの柳の葉と空

上は櫻の枝とあそび

あそび

野のそとくさく種

い月

明の山の中

斗林

もも乃とあそび

急景

夜のとほり中鶏に

全

音のしとあそび

関

春興

梅の香やとあそび

全

野のそとくさく種

鶏旦

朝明也

雪江

屠蘇紅碎人

酒

斗

斗

酒

斗

急

養

卯

卯

言

大得

世

操

中

春

待

不

可



好明

早き所より明ゆき 竹葉

うきうきの形

唐神

燦掃やこころをく

人かこころ

まじり

年久く笑や誘せ

とわたり人か

九番

市原の足とるも 東橋

雲興

昔もたて木まに

たれく

さうろを掃ふ

東橋

とる所のや柳 本神

うきうきの風

まじり

霞けり影

おもしろい溪の水

歌仙 繪巻

しのねを柳白く梅の白く 頓立  
 飛人てを傳はるる所の鯨 子興  
 うさ成りては鞠に遊ばるる 東楊  
 中をたるとは桐やその 巨蓬  
 衣の厚くはるは月 篋杖  
 ちかちかたるは中の志 笛船  
 ともなる艾やその心 富二  
 牛の洞とて傳ふ山 文仲  
 おもはるるは勢は影のたぐ 雪江  
 屏風をたるとは心 誰晁  
 門の灯はともるは 艶呂  
 斗酒とて傳ふは 聃古

野のうさなるは 藤女の 寂之  
 枕のうさなるは 舟の 夫得  
 尺のうさなるは 妹の 茂草  
 うさなるは 玉枝  
 うさなるは 海客  
 糖のうさなるは 棠掉  
 穢なるは 二日  
 うさなるは 芦菴  
 うさなるは 彦科  
 うさなるは 三平春  
 障のうさなるは 蓼臺  
 紙のうさなるは 竹誓  
 うさなるは 本園  
 中なるは 子偷

月信... 登... 出... 拂... 坊... 達

斗林

相... 水... 邊... 中... 中... 中...

干隣

里... 中... 中... 中... 中... 中...

鳩春

方... 殿... の... 為... と... 山... の... 山...

李園

中... 庭... 中... と... 中... の... 中... 中...

巴雪

入... 梅... 乃... 香... の... 風... 妻... 中... の...

吳佳

如... 中... 中... 中... 中... 中... 中... 中...

遷喬

能... 中... 舟... 中... 舟... 中... 舟... 中...

世魁

花... の... 中... 詩... と... 高... 中... の... 中...

八子房

草... 中... 中... 中... 中... 中... 中... 中...

梅路

牙興

親... 中... 中... 中... 中... 中... 中... 中...

小坊

豊後行状



歳... 始... 中... 中... 中... 中... 中... 中...

行... の... 中... 中... 中... 中... 中... 中... 中...

カ明

中... 中... 中... 中... 中... 中... 中... 中...

山保

流... の... 中... 中... 中... 中... 中... 中... 中...

中... 中... 中... 中... 中... 中... 中... 中...

山保

中... 中... 中... 中... 中... 中... 中... 中...

中... 中... 中... 中... 中... 中... 中... 中...

とん

はる水いさめり

初之乾

仙風

とん

とん

鉄人鏡

とん

とん

とん

とん

とん

石海

とん

とん

とん

川舟

とん

とん

世橋

とん

とん

とん

とん

とん

とん

金撥

とん

とん

とん

舟橋寄る  
子夜

子夜

船の舟に泊りて

舟橋

舟の舟に泊りて

舟橋

舟橋寄る

舟橋

舟橋

舟橋寄る



舟橋

舟橋寄る

舟橋

舟橋寄る

舟橋

舟橋寄る

舟橋

舟橋寄る

舟橋

舟橋寄る

舟橋

舟橋寄る

舟橋

舟橋寄る

新記

えうや老う思居のぬらう 九文

青魚

山崎の老う老う 口のひ

日尾

さうさの老う老う 口のひ

此處無事

ふしふし 老う老う 口のひ

八折家

藤花会

# 作は久世連



新記 上は海へは

天満の神を神うや 舎風

神り乾

ふしふし

大坂の老う老う

の古書

春無

ひえらわ老う

鳥の老う 七局

あま

ひえらわ老う

さうさの老う老う

静かなる心

懐く人こそあはれ

今風

三朝 徳をこめた

祝の類いひてゆき

雨降州

心ゆく

陽気なやそてて

柳

ね〜んあはれ

新暦

一と方のなま〜ん

あはれ

果敢

月如〜んあはれ

梅〜んあはれ

春風

舟  
結やわさる人の  
いづれ

いづれ

梅やさるるはゆき

梅

梅

いづれ  
いづれ  
いづれ

いづれ

いづれ  
いづれ

いづれ

いづれ

いづれ

いづれ

いづれ

いづれ

いづれ

いづれ

いづれ

いづれ

いづれ

いづれ

いづれ

いづれ

いづれ  
いづれ

いづれ

いづれ





古今事類

書のやむくはの海に文の

梅のち中風を結く

しんららや柳を

世の

はなをくく沖中

何よの官社

名朝

のの飛くくくくく

後也

車よふもふもふも

解き

そむあつあつあつあつ

水寺

空樓に改く

全米子探り連

いふ房師の再歌

尾巻

吟のやめは後さうく

白朝

えのち折目くくく

大あつあつあつあつ

門のちやあつあつあつ

明のあつあつあつあつ

梅のちあつあつあつ

元朝も何のくも白粉  
解 孝為

初まわ腹し前  
四あわ 夕露

除夜

川の向ふの枝竹の葉  
水 魚刺

とらとけの葉中  
昔勝 老鳥

あゝ  
年々  
あゝ  
昔勝

来々

潮は市街集海  
水 昔勝

海橋も街の白粉  
うま 和歌

昔年の作の懐  
あゝ  
昔勝

さるもあや  
又さるもあや  
夕露

人而

あはれ  
あはれ  
夕露

昔勝

紙の  
あゝ  
夕露

水も  
あゝ

新  
柳

昔勝

春の山は花の影の  
和歌

河のほとりには  
春の影

春の山は花の影の  
魚淵

月影の山は花の影の  
尾花

春夜

春の山は花の影の  
春夜

春の山

春の山は花の影の  
夕暮

春の山は花の影の

春の山

春の山は花の影の  
春盛

春の山は花の影の  
一臥

春の山は花の影の  
芦橋

春の山は花の影の  
文波

春の山

春の山は花の影の  
車

春の山は花の影の  
松

春の山は花の影の  
外

春の山は花の影の  
松

手のぬ

猫の爪のふりきり

如江

芦橋

すねのふりきり

梅のこ

新橋

之のふりきり

おらふりきり

おらふりきり

公助

# 和州今井之社



之元

初霧や

あつらひ

漱石

空無

世帯や

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

歳始

ほのきく初まわりの

船馬

魯郷

人日

あつたまに水川に

ほむし〜まゝあふ

土方幽

梅もやあめあふ

浪の音

ふもあふ

ゆきやふいふとふあふ

陰柳の影

東君

足さけにちれあふ

つれをむの思

可憐

香典

花屋ていねあふ

猫に籠ひる

かみ

花の山にからせり

あふあふ

あふ

切干やふあふ

あふあふあふ

元朝

昔は海内を統一するの事

其の

方

をたつて入山の事あり

せいふ

その時海内を統一する

之如く業 紅岩

その時海内を統一する 至元

元朝

昔は海内を統一する

方

をたつて入山の事あり

元朝

昔は海内を統一する

方

をたつて入山の事あり

方

その時海内を統一する

方

その時海内を統一する 潜水

元朝

昔は海内を統一する

方

その時海内を統一する

歳如

ふらふらとやうな物  
圃夫

不來

録とやうな物

来也

杖とやうな物

来也

四つとやうな物  
概下

来也

とやうな物

人

十とやうな物  
とやうな物

右の所

来也

屋敷の邊に於ける物  
右の所

来也

とやうな物  
とやうな物

来也

とやうな物  
とやうな物

来也

とやうな物  
とやうな物

来也

とやうな物  
とやうな物

来也

とやうな物  
とやうな物

来也

とやうな物  
とやうな物

来也

肥後神崎社中



之姫

かくららねくららやや後海 韮玉

と丹月子の歌もたのしく 玉川

さす

そむそむのしきもたそ 韮玉

ゆきゆきやねるねるしき 玉川

鷲明

用おあかしくしく物も 湖遊

さす

月の神もろくくはた 飯

さす

ま〜ゆ〜〜と端めむ〜

今何丸社中



歳世のまもり

初まゆも様と〜つたのよ 十寸巻

さす

ちちのつとねと〜つたのよ

さす

幸無の葉ののよ〜に掃れ

之姫

初〜〜やねる〜〜水も 茶水

さす

酔く〜〜やねる〜〜の葉も

さす

舟と席に〜〜〜の飯



新正 壬午

之廣政

あふて福を長しし所は 瓢馬

あふて

山美ふも新正今ふ筆此之程

あふて

餅梅や津もあはれをいふ

あふて

あふては保ふまに乃福来れ 里水

あふて

あふてわつとあはれをいふ

あふて

あふてあはれをいふ

あふて

あふてあはれをいふ

あふて

あふてあはれをいふ

あふてあはれをいふ

あふてあはれをいふ

あふてあはれをいふ

あふてあはれをいふ

あふて

あふてあはれをいふ

あふて

あふてあはれをいふ

あふて

あふてあはれをいふ

あふて

あふてあはれをいふ

あふて

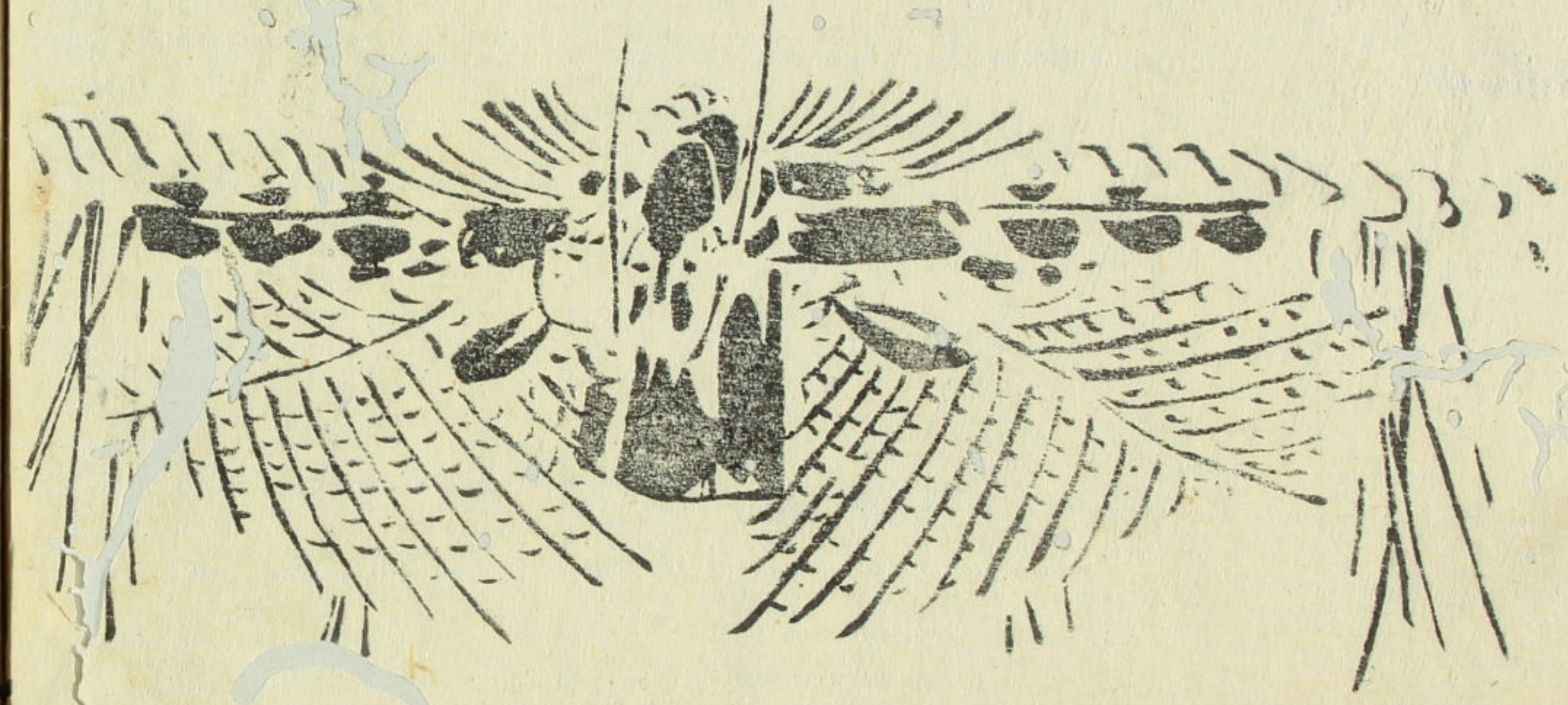
あふてあはれをいふ

あふて

あふてあはれをいふ



浪 兼 函 節 之 吟



三始

昔乃 鐵者

和乃 心

明乃 生

古受

龜亭

立者 在 亦

柳乃 其

心乃 色

心乃 色

心乃 色

歳首

あしをた

そのま

そのま

くま

あつし  
あつし

ろく

あ

あつし

あつし

三朝

あつし

あつし

釣雲

あつし

あつし

あつし

塗板

あつし

あつし

あ

春興

中山折々

七年

月

六回

去

六釣吉

歳旦

左市の出来

中々々々々

生如杯亦初多報

南畝

十月夷毎

新歳も酒々

ありしも持控帳

言はれ難き

紅梅やうき人

さる橋の敷

東雲

ついでに

肉の如き所

橙五

さくら

春の心

雲の如き所

さくら

春の心

さくら

さくら

早春

冷

さくら

さくら

氷

さくら

さくら

さくら

之日對南山

かろくしんあまのこ まはる

いんらんしん はら

若くはあま

穂長そく

臨見みまの酒候と

くしんけ

あま

かろくしん

いんらんしん

あま

歳旦

あまのこ 池文

いんらんしん

あま

あまのこ あま

いんらんしん

あまのこ あま

あま

あまのこ あま

あま

あまのこ

あまのこ あま

あま

三娘 廿の娘

遠くや藤原  
一尾 位川

之五

ふねのつゝ

あひのち 百條

あひのち

あひのち

あひのち

久米米部社

歳旦



之也や世母牡丹の  
楚崎

未子

あひのち

あひのち

あひのち

あひのち

あひのち

あひのち



まゝ

未成の松お入る  
いしとや

御供奉の松も小  
らうか門の松  
素文

所興

総くは日輪

あやふせ松柳

東神

めを屋いふ

やうの屋や

登り坂

初陽

拍ふぬじん

〜

不深

今松松者

東神

若手愛

あやふせ松柳

〜

あやふせ松柳

不深

之如

まのふたなるを  
くろの明

河水

木葉

ほろくろの香の  
松のま

花

おのろの  
くろし

弘風

鳥

健ふ  
物

空

あふ  
か

歳始

是か  
は

乙柄

鳥

あふ  
紙

鳥

あふ  
紙

楳

青き心代試み人々を羨み乙栴

多言風海遊々

御新海は新也其の何彼

空の心せき

多言心や己をせ人の水車

柳

一握り心せき心せき心せき

偶不

とまき新海の新也新也

汝に心せき

汝に心せき心せき心せき

郊の心せき

多言心せき心せき心せき

試毫 物命の心せき

先づ心せき心せき

心せき心せき 一瓢

破心せき

心せき心せき

心せき

心せき心せき

心せき心せき 羨英

春の心せき

きん

松乃女将踏しりし楊梅 忍柳

あま

そのまもふらふに雲ありて

あま

き月や敷子に雲の影あり

あま

き月止らば松乃女将 羊楓山

あま

又そのまもふらふに雲あり

あま

き月や敷子に雲の影あり

あま

信休

佳雨節を意

松乃女将を逢ふ 敬居

松乃女の初めを逢ふ

あまのまもふらふに雲あり

松乃女将を逢ふ

あま

松乃女将を逢ふ 栗秀

あま

松乃女将を逢ふ

あま

松乃女将を逢ふ

松乃女将を逢ふ

改旦

川の海舟くまき物木海

ふん

山々の水漕き物

ふん

山々の水漕き物

ふん

之口や座にさかすか 船打 藤十

人

七まの松まのり 船打 藤十

歳始

来にかり

菴十

きき

初夜

ふん

はつ年之古書

ふん

ふん

大世のうら

ふん

ふん

春興

淡餘也

春に

葦

水

月

心化

とて

三娘

唯字は何も

そとへはむいふ山旦 飛蝶

手の也

女礼はるるもあは

春の月夜

自尾

浪風を志すもふ

あゝ乃底の能

歳首

元也次乃

木亦

橋江より初

亦既

幸皇皇初日

やうせり

関

歳如

白くるとるり

佳南

のそり魚如形

亦既

馬に鞭子

る奴乃

ル

冬江

河

やうせり

新也

えりくに麻

竹賀

りりりりりり

備神

蜂掃や

~~~~~

生也

生風や

洲~~~~

歳旦

北江



えりく 水~~~~ 蟻房

初~~~~ 早五七五三 二電

~~~~~

身~~~~ 如 鷺童

快斗

名~~~~ 二電

た~~~~ 鷺童

~~~~~ 機房


方興

此後翻にやまを

ちやまを

海

此後之を西の意乃

くまを

城

梅乃の意なり

由

二

考

子

八

〜

山

初

後

大

山

流

山

身

山

〜

山

山

山

山

山

山

山

詔光

何處人々も今朝を
門乃出 其芳

小春

勝るも此の世に
くもさるる

小春

晴るも此の世に
くもさるる

小春

運も此の世に
くもさるる

花仙

花仙

花仙

小春

傳来の梅も
くもさるる

小春

いふも此の世に
くもさるる

小春

牛も此の世に
くもさるる

小春

書福の初由に
南極帳 湖連

小春

くもさるる
くもさるる

小春

くもさるる
くもさるる

小春

くもさるる
くもさるる

小春

くもさるる
くもさるる

之好

今松籠

居るもや藤の多き此 知集

初と新

前と後

とつらるる水

いぬはしきいぬはしき

いぬはしき

つら

了地も片の松

着るもいぬはしき

いぬはしき

いぬはしきいぬはしき

いぬはしき

光也

了地も片の松しおるも片の松

いぬはしき

梅柳のさきもいぬはしき

いぬはしき

いぬはしきいぬはしき

いぬはしき

えりも難きにいぬはしき

いぬはしき

松葉のさきもいぬはしき

いぬはしき

いぬはしきいぬはしき

いぬはしき

いぬはしきいぬはしき

正朝

於くはしつゝあゝの 子邑

さなほ保ちのち

うゝまのちのちのち

はな

あゝのちのちのち

あゝ無

其意

山の端のちのちのち 紅窓

あゝ

其意

梅はちのちのちのち 事天

あゝ

其意

あゝのちのちのち 未和

其意

手仙一順

あゝ

あゝのちのちのち 居從

あゝのちのちのち 万阿

あゝのちのちのち 可雲

あゝのちのちのち 柳又

あゝのちのちのち 長英

あゝのちのちのち 南畝

あゝのちのちのち 不老

あゝのちのちのち 柳山

ほくよめりもあつたのうす 珠几

乾らりぬるもあつた 雲 高海

桜井の遠海もあつた 一瀬

こゝろもあつた 有希 塔亭

そらもあつたのうす 乙極

橋へもあつた 小舟

龍舟もあつた 尺筋

小舟もあつた 扇居

はるもあつた 百條

下巻

春無

紅梅もあつた

春圃

既紅雲

いづこ

春無

雪もあつた

春圃

雪もあつた

不二の山

絨毛

七千とては寝るゝ寝るの
まありのゝかゝるゝ
こゝろ
あはれ

たふと

年の尾やふ川の錦と
馬の
まゝ

あけのつゆの歌
瓜と
たふと

あけのつゆの歌
瓜と
たふと

あけのつゆの歌
瓜と
たふと

長雨

あけのつゆの歌
瓜と
たふと

あけのつゆの歌
瓜と
たふと

あけのつゆの歌
瓜と
たふと

あけのつゆの歌
瓜と
たふと

あけのつゆの歌
瓜と
たふと

あけのつゆ

あけのつゆの歌
瓜と
たふと

藤和

田舎の山を登りて見れば 菴十

紅雲を巻くも中を流る 東門

ほくまの雲のうらみ 金芽

流木柳

よもぎ水に垢のぬきぬき 万何

形も

おやけの物も人非る 雲のうらみ

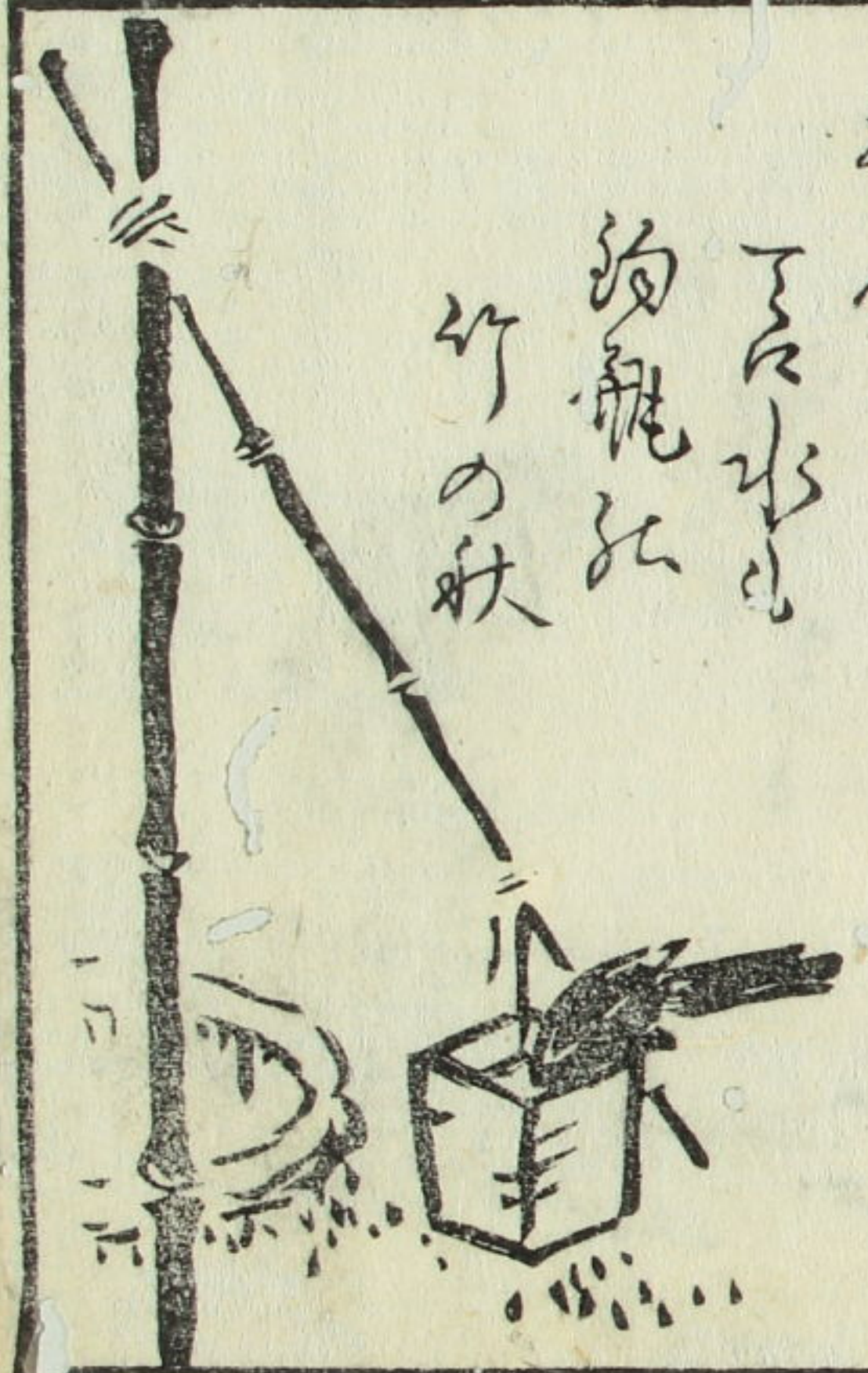
王維のひくくもきあつては橋の
おん水にあやめりて空に文は乃
こゝろこゝろ〜〜〜あつてと
詠〜〜〜あつてと
の〜〜〜あつてと
真中〜あつてと

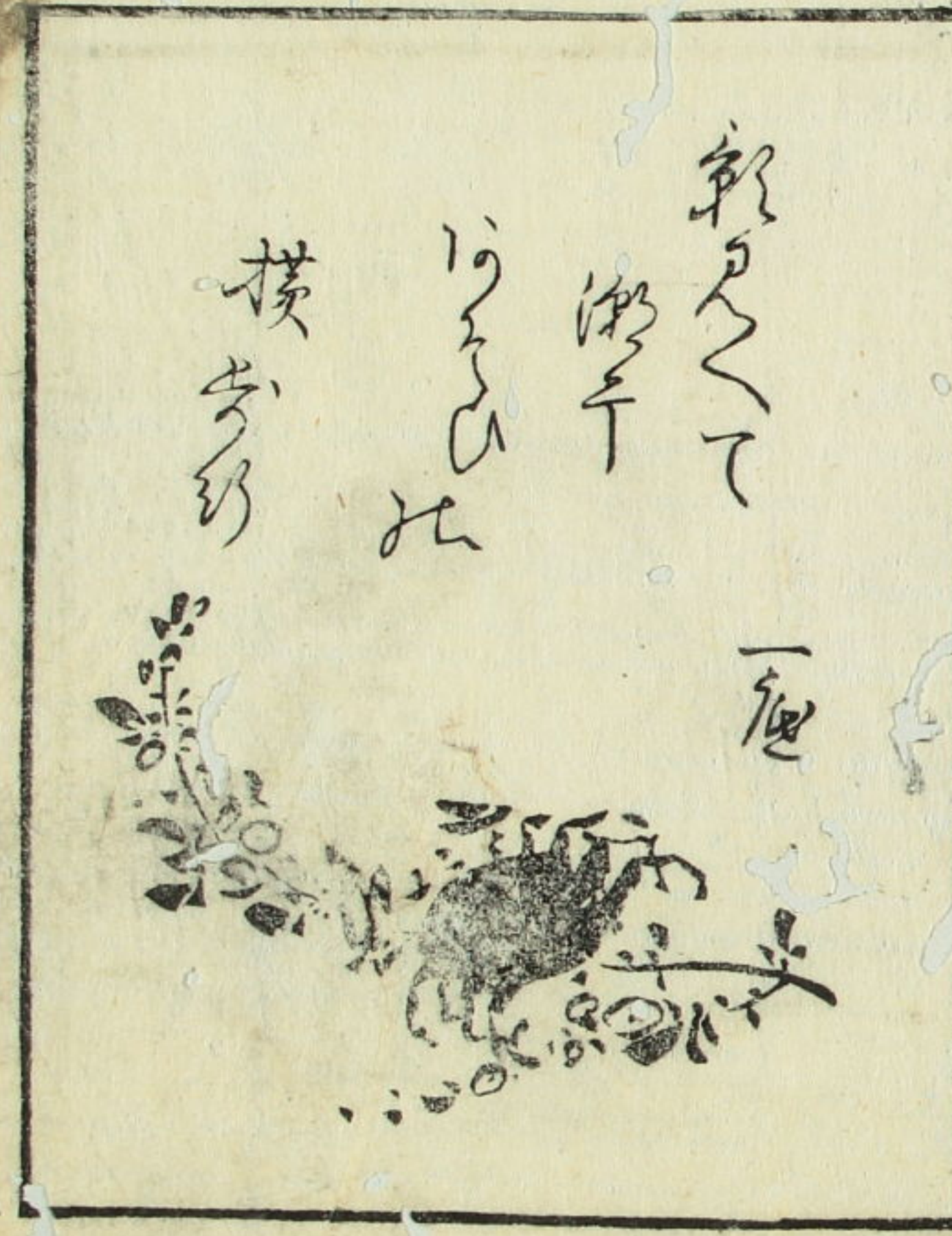
蓬茅ゆき
ふれいふ
ふいふ
ぬ



乙柄

水鳥
丁白水
狗籠
竹の秋





まの同人
あまろけ

かき

おろけ

ま



天皇寺

くま

くま

の毛



小田

及二のふきまけ

橙五

ま

帰る鷹



帰る一

ま

あ

水

東秀





新可人きや
居内、新永
馬籠中

魚科



ほろ

と

は

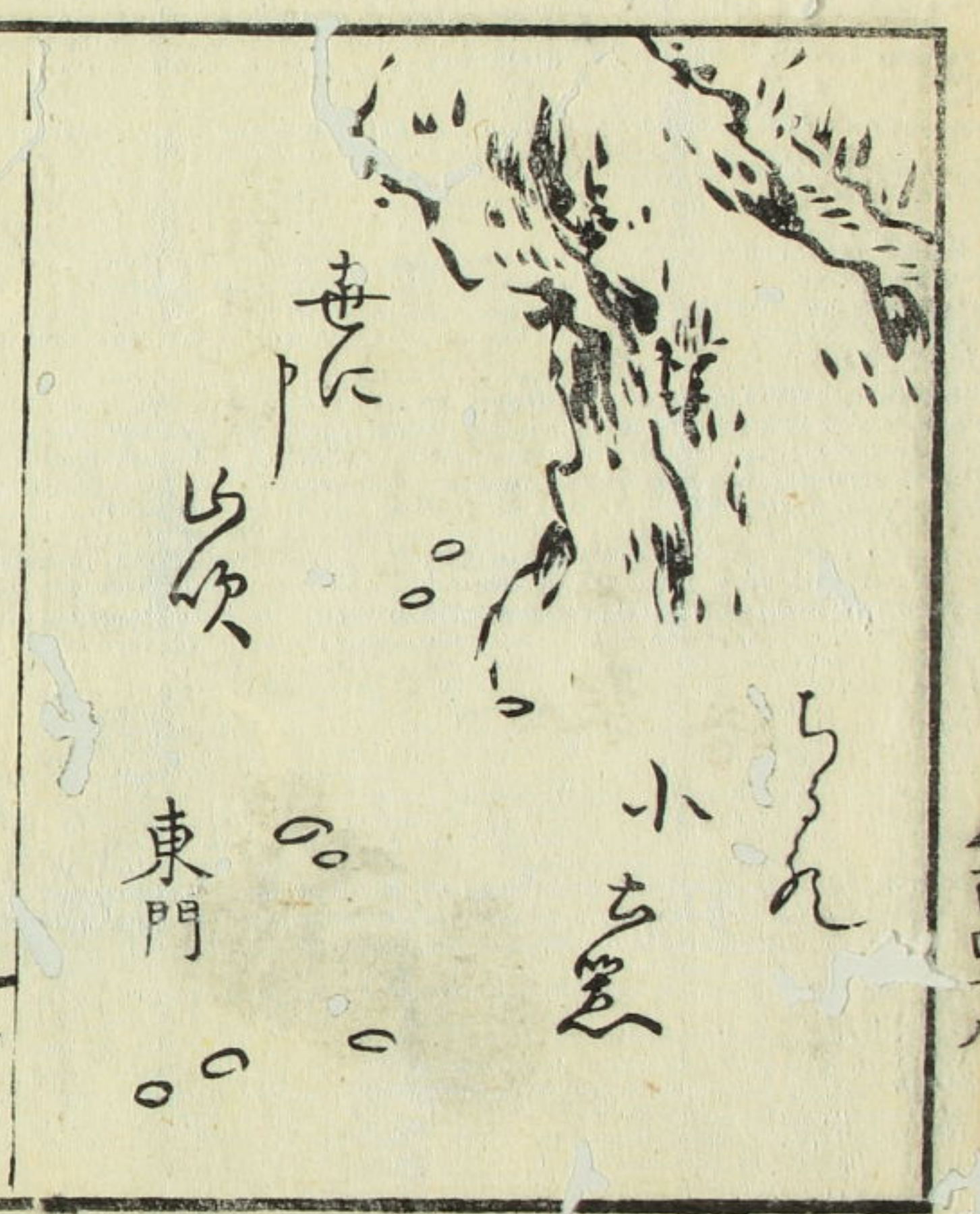
た

竹

は

た

竹柄

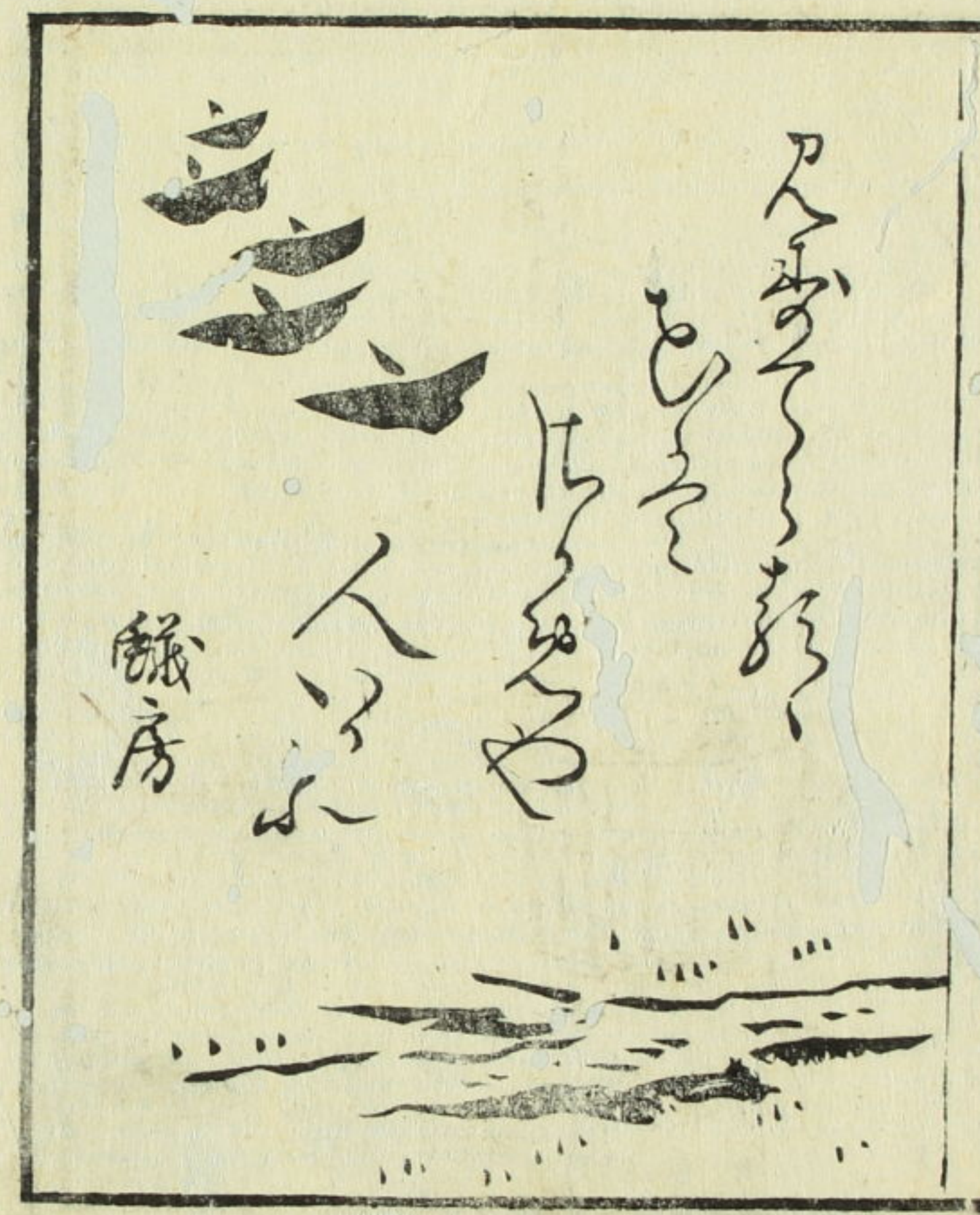


毒山

山吹

東門

小古屋



又安々々々

と

片

一人

船房



子代

能

桶

女

の人

編笛

乳兜

果

案

案

案

佳南

柳

花

尺

紙



蝶

羽

金

牙

花



雲

霞

霧

雨

長



山

川

花

鳥

長

鳥

花

鳥

あつた

きりぬりし世
待たせやじき
英英

赤色

おのれ代りおの
るものよ
記取

たのむ

砂のまじりて
まじりて
の解

ゆき

強はるわ
唐厨より
梅乾
梅京

六

えんやまのり
川西に可雲

いづれに
あつた

三娘

あつた
八日坊
万阿

いづれに
あつた

あつた

あつた
あつた

春吟

あつた

あつた
春秋令
冬陽

あつた

祝の島

多福の島に清くとも世に書は

千々也

辰月一に女念佛度大

且日今

飛小蝶をいふれりや

形外心

沖何くもやふるは瓜畑 八子坊

諸國のまゝの部

伯州のまゝの部

三始



樹廻りくもらふれは吉波

立者 清くも

そらもやまの山にあり

出の心

初非子ほらうと居る此の香

形明

とらふも思ふはるも吉波 蘭岸

人々

身付一にたてしきも橋

空の心

雪一面のまはるは

之形

田州子有

福あけや言まはれり 枝推

多尾

さかきのかたみはたかき

そりぬ

磁石

湯かきほとのあはれぬ

之形

何んかあつゝと志

木

美なるかたき

の股

骨

吹くかたき

こ

さかきあはれり 枝

字

かたき

かた

さかきあはれり

枝の中

さ

さかきあはれり 枝

さ

さかきあはれり

枝

さ

さかきあはれり 枝

歌平

夕べに鶴の泣き声は 涙を人懐角

と云ふ

朝の和風は 涙のこぼれ

と云ふ

四ノ巻

初秋の夕べは 涙のこぼれ 朝夕

と云ふ

鶴の泣き声は 涙のこぼれ

と云ふ

又師の力負はるる 柳の葉

朝露

七十と擡げらるる 今朝の 可幸

と云ふ

山崎の鶴の泣き声は 涙のこぼれ

と云ふ

夜ふくむと 鶴の泣き声は 涙のこぼれ

と云ふ

朝の和風は 涙のこぼれ 朝夕

と云ふ

鶴の泣き声は 涙のこぼれ

と云ふ

夕べに鶴の泣き声は 涙を人懐角

と云ふ

朝の和風は 涙のこぼれ 朝夕

偶々

鶴の泣き声は 涙のこぼれ

と云ふ

八巻

西豆后 乙律
森町連

歳旦



持ふ代や毎々初色くぬ物 春静
ゆらゆらや粒ひささく火流 珠翠
井さなやしらと美衣取二 逆舟
るるるはくもくや尚寄 蛙文
唐舞はや粒みはくもく 燕之
しら風やまきまき 一杭
物り粒さく 千笛
あいなま 伍風

初り粒ゆされ末の初 蠲仙
ゆあや 井梧
水あ 音螺
あ 可喬
ま 楚江

守歳

あ 楚江
あ 可喬
あ 音螺
あ 井梧
あ 蠲仙

はるかにあけぬる市 伍九

あけぬる市 子第

あけぬる市 一航

あけぬる市 燕之

あけぬる市 城文

あけぬる市 道新

あけぬる市 海幸

あけぬる市 志新

あけぬる市

あけぬる市 春新

あけぬる市 珠新

あけぬる市 道新

あけぬる市 城文

あけぬる市 志新

あけぬる市 一航

あけぬる市 文第

あけぬる市 伍九

あけぬる市 城文

あけぬる市 道新

あけぬる市 海幸

あけぬる市 志新

あけぬる市 一航

あけぬる市 子第

あけぬる市 伍九

あけぬる市 城文

あけぬる市 道新

筑後生葉連中

歳旦



我五く春はまゝなる人久人

逢水

折々〜抗あ〜

うらみ

ゆ〜りておるは〜物〜

ふき

たの〜も〜と〜

三娘

唯〜月〜の相〜飾〜は〜

や〜保

月〜の〜と〜

ふ〜

何〜の〜

〜

〜は〜

極の毫

不木

あ〜

ふ〜

ふ〜

あ〜

ふ〜

物〜

湖天

築山

唐詩の載く流る水が

高木梅

のたてのたけもろの梅一枝

海濱の梅

千鳥の鳴るる梅一枝

梅

梅の香るる梅

梅

人とのあつた梅

梅

梅の香るる梅

梅

梅の香るる梅

梅

梅の香るる梅

梅

梅

梅の香るる梅

梅

梅

梅の香るる梅

梅

梅の香るる梅

梅

詔之 延暦寺に於て
捨心はくしん山玉の如件

人か

嫁娘のきまわらひ
秋平 秋のころ

山指居やんま 結衣

初や後と云

山柿の枝小は 幸吉
やうな南 二年

存心 存の極

夜金乃鐘 小房
ちり集ふ山信柳

二信

肥前社

のこ 尾
普山

信程 信

次 信

之と

信

ちの 信
桂合

信

信

身 信
信

不志

口口也林伐くくろく三三三

年神

輝輝と今今と

香丸二

ささや〜〜〜

ささや〜〜〜

之朝

今櫻

牛の〜〜〜

日毛

あ〜〜〜

事

事

あ〜〜〜

あ〜〜〜

事

あ〜〜〜

歳旦

あ〜〜〜

事

あ〜〜〜

事

あ〜〜〜

事

あ〜〜〜

事

あ〜〜〜

事

あ〜〜〜

事

あ〜〜〜

氷
わらわら水と都々ほの味 三興

老多入振落と〜 此書

居居のふいふ〜 此書の 玉露

秘書に凡のあ〜 此書の

西の柳と〜 此書の

小のあ〜 此書の

此のあ〜 此書の

旅〜 此書の

三興

此〜 此書の

縁ありが〜 此書の

歳始

脈水

一書

水

水

一書

水

三興

好連

歳旦

心もろくもあはれ

おろそかにも書か

ま

しるすもあはれ

世情もあはれ

も

揚

さうりもあはれ

おろそかにも

おろそかにも

歳旦

先づあはれ

味もあはれ

壺

梅もあはれ

能くもあはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

徐太師

このころの思

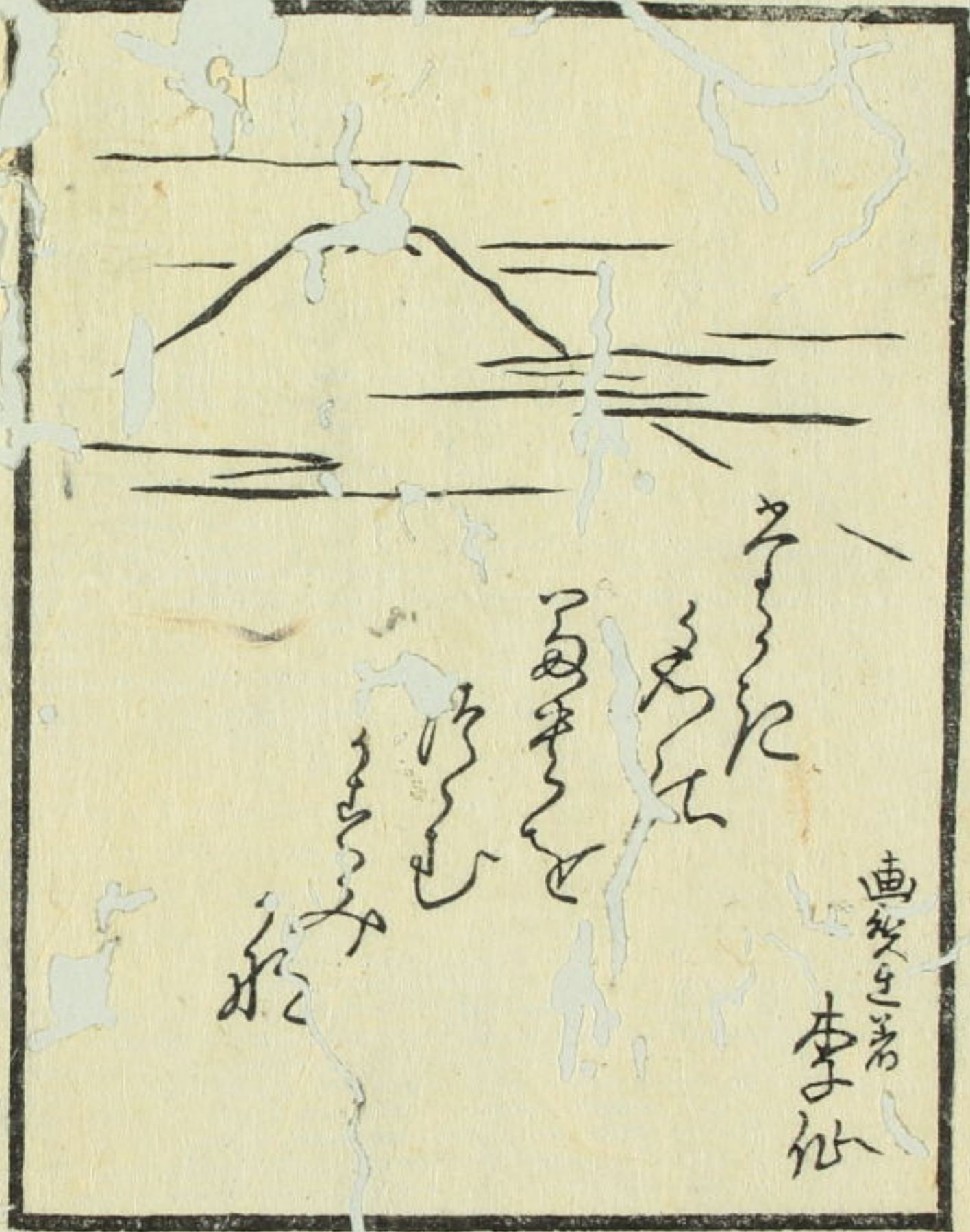
すくぬるぬ

1000

思

大江勝

内閣



畫堂李仙

そら
あは
あは
あは
あは
あは

阿加富園は連着

藏始

日徐る

おちるや母の父母

堤松余

顧什

門水陸の程あり

たふ半差差の録

ぬるま

松本

龍印

香

はるるの

御

果正 和のあまのまじり

和の初めはあまのまじり

白しりあまのまじり

和のあまのまじり

門の神祇

駝岳

鳥尾

あまのまじり

和

和のあまのまじり

あまのまじり

岳

鳥尾

和のあまのまじり

あまのまじり

和

和

和のあまのまじり

和のあまのまじり

和のあまのまじり

和

和

和のあまのまじり

和

和

和のあまのまじり

和のあまのまじり

和

和

和

和のあまのまじり

和のあまのまじり

之娘

ふきの葉の下の根の傍の露下

の娘

あつらふやみの尾の流す水

の娘

はつたのほろろに金枝の

の娘

そよと持てふふる露

露

豊後田原村



之娘

十八の風をよむと乃止

竹葉

の娘

あめふりて終るあまの二葉

の娘

是よりたす事と柳と

の娘

月出たささきと雲の露

の娘

代の雲をよむと

の娘

晴れたる人言ふと

の娘

えのやまの梅と花と

の娘

あつらふやみの尾の流す水

露

こころ

傾きぬ心持のこころも馬十

あつちのこころも馬十

あつちのこころも馬十

あつちのこころも馬十

あつちのこころも馬十

あつちのこころも馬十

あつちのこころも馬十

あつちのこころも馬十

あつちのこころも馬十

あつちのこころも馬十

あつちのこころも馬十

あつちのこころも馬十

あつちのこころも馬十

あつちのこころも馬十

あつちのこころも馬十

あつちのこころも馬十

あつたけりしとて
あつたけりしとて

山歌

あつたけりし

あつたけりしとて
あつたけりしとて

あつたけりしとて
あつたけりしとて

あつたけりしとて
あつたけりしとて

あつたけりし

あつたけりしとて
あつたけりしとて

あつたけりし

あつたけりしとて
あつたけりしとて

あつたけりし

あつたけりしとて
あつたけりしとて

あつたけりし

あつたけりしとて
あつたけりしとて

